

2024 年度  
事業報告書

(2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)



## 目次

|  |    |
|--|----|
| 1. 法人の概要                               | 2  |
| (1) 基本情報                               |    |
| (2) 建学の精神・教育方針・学園パーパス                  |    |
| (3) 鶴学園の沿革                             |    |
| (4) 設置する学校                             |    |
| (5) 学校・学部・学科等の学生数の状況                   |    |
| (6) 収容定員充足率                            |    |
| (7) 役員の概要                              |    |
| (8) 評議員の概要                             |    |
| (9) 教職員の人数・平均年齢                        |    |
| 2. 事業の概要                               | 10 |
| (1) 主な教育・研究の概要                         |    |
| (2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況 |    |
| 3. 財務の概要                               | 35 |
| (1) 決算の概要                              |    |
| (2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策       |    |

## 1. 法人の概要

### (1) 基本情報

学校法人鶴学園

〒731-5193 広島県広島市佐伯区三宅2丁目1-1

電話番号：082-921-3121 FAX：082-921-8934

URL：<https://www.tsuru-gakuen.ac.jp/>

### (2) 建学の精神・教育方針・学園パーパス

#### ・建学の精神「教育は愛なり」

校祖鶴虎太郎の教育精神を現したこの言葉を、建学の精神として定め継承してきました。児童・生徒・学生を心から愛し、愛にもとづく教育をされ、愛を教育の本質とされた教育の精神を永遠の目標とし、その原点を見失わないよう、これからも私学らしい特色ある教育に取り組んでいきます。

#### ・教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」

人格の完成を目指し、心身ともに健康にして己を制御し「常に神と共に歩み社会に奉仕する」人間の育成が、鶴学園の教育方針です。さまざまな問題が山積みし、教育の真価が問われようとしている今こそ、私たちは、この教育方針を堅持し、社会に貢献できる教育を展開していきます。

#### ・学園パーパス「人を想う、どこまでも。」

入学した児童・生徒・学生は、何があっても誰一人として取り残すようなことはしない。鶴学園のパーパスには、その意思が込められています。

これから日本、世界へと羽ばたく子どもたちに何ができるのか。私たち鶴学園は各設置校の目指す姿を教職員がともにパーパス・ステートメントとして見つめ直しました。教育に対して愛のある熱い想い、それぞれの特色ある教育・学校づくりに取り組みながら、児童・生徒・学生の明るい未来を創造し、社会の発展につなげてまいります。

### (3) 鶴学園の沿革

1956（昭和31）年 2月 広島高等電波学校（各種学校）設置認可

1957（昭和32）年 11月 学校法人鶴学園設置認可

1958（昭和33）年 4月 広島電波工業高等学校（全日制）開校

1961（昭和36）年 4月 広島工業短期大学開学

広島工業短期大学附属中学校開校

広島電波工業高等学校を広島工業短期大学附属工業高等学校と改称

- 1963（昭和 38）年 4 月 広島工業大学（工学部）開学  
 広島工業短期大学附属工業高等学校を広島工業大学附属工業高等学校と改称  
 広島工業短期大学附属中学校を広島工業大学附属中学校と改称
- 1963（昭和 38）年 4 月 広島高等電波学校廃止認可
- 1965（昭和 40）年 3 月 広島工業短期大学廃止認可
- 1965（昭和 40）年 4 月 広島高等学校（全日制）開校  
 広島工業大学附属中学校を広島高等学校附属中学校と改称
- 1966（昭和 41）年 10 月 広島高等学校を広島工業大学附属広島高等学校と改称  
 広島高等学校附属中学校を広島工業大学附属中学校と改称
- 1984（昭和 59）年 4 月 広島工業大学附属広島情報専門学校（工業専門課程、商業実務専門課程）開校
- 1985（昭和 60）年 4 月 広島工業大学附属広島情報専門学校に夜間部を増設
- 1987（昭和 62）年 4 月 広島工業大学附属広島情報専門学校に文化・教養専門課程を増設
- 1989（平成 元）年 4 月 広島工業大学に大学院工学研究科修士課程を開設
- 1993（平成 5）年 4 月 広島工業大学に環境学部を増設
- 1994（平成 6）年 4 月 広島工業大学附属工業高等学校を広島工業大学高等学校と改称  
 広島工業大学附属広島情報専門学校を広島工業大学専門学校と改称
- 1996（平成 8）年 4 月 広島工業大学大学院・工学研究科に博士課程を増設
- 1997（平成 9）年 4 月 広島工業大学大学院に環境学研究科修士課程を増設
- 2000（平成 12）年 4 月 デネブ高等学校（通信制・単位制）開校
- 2003（平成 15）年 4 月 なぎさ公園小学校開校
- 2006（平成 18）年 4 月 広島工業大学の 2 学部（工学部・環境学部）を 3 学部（工学部・情報学部・環境学部）に改組
- 2008（平成 20）年 4 月 広島工業大学大学院の工学研究科と環境学研究科を統合し、工学系研究科を設置  
 広島工業大学附属広島高等学校・広島工業大学附属中学校を広島なぎさ高等学校・広島なぎさ中学校と改称
- 2009（平成 21）年 3 月 広島工業大学大学院の環境学研究科を廃止
- 2010（平成 22）年 3 月 広島工業大学大学院の工学研究科を廃止
- 2011（平成 23）年 4 月 広島工業大学高等学校に通信制課程（エンカレッジコース）を増設
- 2011（平成 23）年 11 月 デネブ高等学校を廃止
- 2012（平成 24）年 4 月 広島工業大学に生命学部を増設

## (4) 設置する学校

| 設置学校名      | 郵便番号     | 所在地               | 電話番号         | 設立年月日          |
|------------|----------|-------------------|--------------|----------------|
| 広島工業大学     | 731-5193 | 広島市佐伯区三宅 2-1-1    | 082-921-3121 | 1963年<br>1月21日 |
| 広島工業大学専門学校 | 733-8533 | 広島市西区福島町 2-1-1    | 082-295-5111 | 1984年<br>1月14日 |
| 広島工業大学高等学校 | 733-0842 | 広島市西区井口 5-34-1    | 082-277-9205 | 1958年<br>2月17日 |
| 広島なぎさ高等学校  | 731-5138 | 広島市佐伯区海老山南 2-2-1  | 082-921-2137 | 1965年<br>3月25日 |
| 広島なぎさ中学校   | 731-5138 | 広島市佐伯区海老山南 2-2-1  | 082-921-2137 | 1961年<br>3月27日 |
| なぎさ公園小学校   | 731-5138 | 広島市佐伯区海老山南 2-2-30 | 082-943-0001 | 2003年<br>2月14日 |

## (5) 学校・学部・学科等の学生数の状況 (2024年5月1日現在)

## 広島工業大学

|     |        | 入学定員   | 入学者数 | 収容定員   | 学生数    | 学科・専攻  |   |
|-----|--------|--------|------|--------|--------|--|---|
| 学部  | 工学部    | 560名   | 432名 | 2,230名 | 2,091名 | 電子情報工学科<br>電気システム工学科<br>機械システム工学科<br>知能機械工学科<br>環境土木工学科<br>建築工学科 |   |
|     | 情報学部   | 220名   | 267名 | 880名   | 990名   | 情報工学科<br>知的情報システム学科<br>情報コミュニケーション学科                             |   |
|     | 環境学部   | 180名   | 202名 | 710名   | 768名   | 建築デザイン学科<br>地球環境学科   |   |
|     | 生命学部   | 120名   | 94名  | 500名   | 366名   | 生体医工学科<br>食品生命科学科  |   |
|     | 学部合計   | 1,080名 | 995名 | 4,320名 | 4,215名 |  |   |
| 大学院 | 工学系研究科 | 博士前期課程 | 60名  | 69名    | 120名   | 123名   | 電気電子工学専攻<br>機械システム工学専攻<br>建設工学専攻<br>情報システム科学専攻<br>環境学専攻<br>生命機能工学専攻 |
|     |        | 博士後期課程 | 8名   | 1名     | 24名    | 3名   | 知的機能科学専攻  |
|     | 大学院合計  | 68名    | 70名  | 144名   | 126名   |  |   |

広島工業大学以外の設置校

| 学校名        | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員   | 児童・生徒・学生数 |
|------------|------|------|--------|-----------|
| 広島工業大学専門学校 | 320名 | 197名 | 615名   | 409名      |
| 広島工業大学高等学校 |      |      |        |           |
| 全日制課程・普通科  | 400名 | 333名 | 1,200名 | 1,200名    |
| 通信制課程・普通科  | 80名  | 37名  | 240名   | 124名      |
| 広島なぎさ高等学校  | 200名 | 229名 | 600名   | 613名      |
| 広島なぎさ中学校   | 200名 | 199名 | 600名   | 582名      |
| なぎさ公園小学校   | 90名  | 72名  | 540名   | 427名      |

(6) 収容定員充足率

| 学校名        | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 広島工業大学     |        |        |        |        |        |
| 学部         | 1.05   | 1.05   | 1.04   | 1.00   | 0.98   |
| 大学院        | 0.72   | 0.68   | 0.73   | 0.76   | 0.88   |
| 広島工業大学専門学校 | 0.80   | 0.77   | 0.79   | 0.77   | 0.67   |
| 広島工業大学高等学校 |        |        |        |        |        |
| 全日制課程・普通科  | 1.17   | 1.14   | 1.32   | 1.06   | 1.00   |
| 通信制課程・普通科  | 0.46   | 0.45   | 0.47   | 0.51   | 0.52   |
| 広島なぎさ高等学校  | 1.07   | 1.04   | 0.96   | 0.97   | 1.02   |
| 広島なぎさ中学校   | 0.95   | 0.97   | 1.00   | 0.99   | 0.97   |
| なぎさ公園小学校   | 0.98   | 1.00   | 1.01   | 1.03   | 1.02   |

※なぎさ公園小学校については、募集定員に対する充足率

(7) 役員の概要

理事 定員：11名～16名（2024年5月1日現在）

| 常勤・非常勤        | 氏名    | 就任年月日      | 主な現職等                                      |
|---------------|-------|------------|--|
| 常勤（代表）<br>理事長 | 鶴 衛   | 1988年5月28日 | 学園総長                                       |
| 常勤            | 鶴 健太郎 | 2019年4月1日  | 学園常務理事                                     |
| 常勤            | 長坂 康史 | 2019年4月1日  | 広島工業大学 学長                                  |
| 常勤            | 佐藤 隆吉 | 2024年4月1日  | 広島工業大学専門学校 校長                              |
| 常勤            | 山口 健治 | 2018年4月1日  | 広島工業大学高等学校 校長                              |
| 常勤            | 上野 和之 | 2021年4月1日  | 広島なぎさ高等学校 校長<br>広島なぎさ中学校 校長<br>なぎさ公園小学校 校長 |
| 常勤            | 松浦 功  | 2023年4月1日  | 法人局長<br>広島工業大学 事務局長                        |
| 非常勤           | 田中 健志 | 2018年2月17日 | 田中化工機工業株式会社 顧問                             |
| 非常勤           | 三島 豊  | 2019年4月1日  | 三島食品株式会社 代表取締役会長                           |
| 非常勤           | 秋田智佳子 | 2021年6月1日  | 広島総合法律会計事務所 弁護士                            |

監事 定員：2名～3名（2024年5月1日現在）

| 常勤・非常勤 | 氏名    | 就任年月日     | 主な現職等 |
|--------|-------|-----------|-------|
| 常勤     | 榎田 好一 | 2015年4月1日 | 常勤    |
| 常勤     | 木村 義将 | 2019年4月1日 | 常勤    |

① 責任免除・責任限定契約の状況

責任限定契約

私立学校法に従い、令和2年4月1日付けで責任限定契約を締結した。

・対象役員の氏名

監事（榎田 好一、木村 義將）

・契約内容の概要

監事はその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金50万円と、在職中に学校法人から職務執行の対価として受け又は受けるべき財産上の利益の1年間当たりの額に相当する額として私立学校法施行規則第3条の3に定める方法により算定される額に2を乗じて得た額との、いずれか高い額を責任限度額とする。

② 補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

役員賠償責任保険制度への加入

私立学校法に従い、令和6年4月1日付けで私大協役員賠償責任保険に加入した。

・団体契約者

日本私立大学協会

・被保険者

記名法人：学校法人鶴学園

個人被保険者：理事・監事

・補償内容

ア：役員（個人被保険者）に関する補償

法律上の損害賠償金、争訟費用等

イ：記名法人に関する補償

法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用

・支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

・保険期間中総支払限度額

10億円

## (8) 評議員の概要 定員：24名～34名（2024年5月1日現在）

| 常勤・非常勤 | 氏名    | 就任年月日       | 主な現職等                                      |
|--------|-------|-------------|--|
| 常勤     | 鶴 衛   | 1988年5月28日  | 学園総長                                       |
| 常勤     | 鶴 健太郎 | 2017年6月1日   | 学園常務理事                                     |
| 常勤     | 長坂 康史 | 2019年4月1日   | 広島工業大学 学長                                  |
| 常勤     | 佐藤 隆吉 | 2024年4月1日   | 広島工業大学専門学校 校長                              |
| 常勤     | 山口 健治 | 2018年4月1日   | 広島工業大学高等学校 校長                              |
| 常勤     | 上野 和之 | 2021年4月1日   | 広島なぎさ高等学校 校長<br>広島なぎさ中学校 校長<br>なぎさ公園小学校 校長 |
| 常勤     | 小黒 剛成 | 2021年4月1日   | 広島工業大学 教授<br>広島工業大学 副学長                    |
| 常勤     | 林 孝典  | 2023年4月1日   | 広島工業大学 教授<br>広島工業大学 副学長                    |
| 常勤     | 福地 光文 | 2023年4月1日   | 広島工業大学高等学校 副校長                             |
| 常勤     | 田中 裕美 | 2023年4月1日   | 広島なぎさ中学校・高校 副校長                            |
| 常勤     | 染井 真吾 | 2023年4月1日   | なぎさ公園小学校 副校長                               |
| 非常勤    | 田中 健志 | 2006年6月1日   | 田中化工機工業株式会社 顧問                             |
| 非常勤    | 三島 豊  | 2019年4月1日   | 三島食品株式会社 代表取締役会長                           |
| 常勤     | 松浦 功  | 2023年4月1日   | 法人局長<br>広島工業大学 事務局長                        |
| 非常勤    | 河野 高信 | 1999年5月29日  | 己斐商事株式会社 代表取締役                             |
| 非常勤    | 中村靖富満 | 2011年4月1日   | 株式会社やまだ屋 代表取締役社長                           |
| 非常勤    | 福原 之織 | 2012年4月1日   | エリザベト音楽大学 教授                               |
| 非常勤    | 小松 節子 | 2013年4月1日   | 株式会社メンテックワールド 代表取締役社長                      |
| 非常勤    | 荒神 尚美 | 2021年4月1日   | 荒神五師税理士事務所 副所長                             |
| 非常勤    | 秋田智佳子 | 2021年6月1日   | 広島総合法律会計事務所 弁護士                            |
| 非常勤    | 吉清 有三 | 1985年3月23日  | 株式会社ムルク 代表取締役社長                            |
| 非常勤    | 荒谷 壽一 | 1997年11月10日 | 株式会社荒谷建設コンサルタント 代表取締役会長                    |
| 非常勤    | 横山 健次 | 2002年4月1日   | 横山建築研究所 所長                                 |
| 非常勤    | 長谷川光夫 | 2009年6月1日   |  |

(9) 教職員の人数・平均年齢（2024年5月1日現在）

| 学校名        | 人数   |      |      | 平均年齢  |
|------------|------|------|------|-------|
|            | 教員   | 職員   | 合計   |       |
| 広島工業大学     | 175名 | 66名  | 241名 | 51.6歳 |
| 広島工業大学専門学校 | 24名  | 12名  | 36名  | 53.9歳 |
| 広島工業大学高等学校 | 88名  | 11名  | 99名  | 39.5歳 |
| 広島なぎさ高等学校  | 39名  | 5名   | 44名  | 46.7歳 |
| 広島なぎさ中学校   | 38名  | —    | 38名  | 39.9歳 |
| なぎさ公園小学校   | 36名  | 4名   | 40名  | 41.1歳 |
| 法人局        | 4名   | 70名  | 74名  | 48.0歳 |
| 学園合計       | 404名 | 168名 | 572名 | 47.3歳 |

## 2. 事業の概要

### (1) 主な教育・研究の概要

#### 広島工業大学

広島工業大学は創立から約 60 年になります。53,000 人を超える卒業生は、現在さまざまな分野で活躍しています。専門的知識や技術である専門力はもちろん、これからの予測困難な社会を支える技術者として活躍できる人間力、さまざまな人と協働しながら答えの決まっていない課題を解決していく社会実践力を身につけた、高い倫理観を持った社会に奉仕する技術者の育成をめざします。

#### ・専門力

先行きの見えない社会の中で技術者として活躍していくためには、専門分野に対する深い理解と知識を他の分野と掛け合わせながら、社会や組織の課題を解決することが求められています。実社会と各学科の学びを結びつけるとともに、4年間かけて段階的に幅広い教養や他分野の知識、柔軟な思考力を身につけられるよう、カリキュラムを設定し、確かな「専門力」を養います。

#### ・人間力

企業など組織の中で他者と協働しながら自らの考えを発信し活躍できるよう、知識や技術に加えて、社会人として活躍するための基礎となる「人間力」の養成に力を入れています。社会貢献活動、自己啓発活動など課外活動を数値化することにより、自らの人間的成長を測る指標とする HIT ポイント制度の導入などを通して、目標を設定しながら人間力を高めていきます。

#### ・社会実践力

それぞれの学科の学びと実社会にかかわる課題に約 20 人のグループで協働しながら取り組む「社会実践科目」などを通して、答えが決まっていない課題を仲間とともに発見し解決する力を磨きます。また、グローバルな視点で物事を考え必要に応じてローカルで行動する、地域や国際社会で活躍できる力や、異なる立場の人と連携しながら学び合い成長し続けられる力を磨いていきます。

広島工業大学では、卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力を示すディプロマ・ポリシーと、それを達成するための教育課程の編成・実施の在り方を示すカリキュラム・ポリシー、これら二つのポリシーを踏まえて学生を受け入れるためのアドミッション・ポリシーをそれぞれ次のとおり定めています。

#### ・ディプロマ・ポリシー

「建学の精神」及び「教育方針」に則り、科学と真理に関わる知識と技術を身に付け、豊かな人間性を有する倫理観ある技術系人材の養成を目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める修了要件又は卒業要件を満たすとともに、次に示す「知識・理解」「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲・態度」を備えた者に、博士、修士又は学士の学位を授与します。

#### <知識・理解>

科学技術に関する知識を得てそれを応用できる。

<思考・判断>

持続可能な社会創出への思考に基づいて適切な対応を考えることができる。

<技能・表現>

幅広い教養と専門知識の汎用的技能を備え、豊かな表現力を身に付けている。

<関心・意欲・態度>

主体的で継続的な学びへの関心と奉仕の意欲を有し、技術者としての高い倫理観を身に付けている。

・カリキュラム・ポリシー

修了認定・学位授与の方針又は卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、開設する授業科目を、カリキュラム・ツリーを用いて系統立て、ナンバリングにより体系化を図り、整合性を確保した教育課程を編成します。また、各授業科目については、シラバスにより目的、教育内容と方法、学修成果の評価基準を明示し、学生が主体的に学ぶことができる内容とします。さらに、ポートフォリオシステムを用いて、学生自らが、学修計画、人間力を高めるための計画及びキャリアデザインの立案、実行、振り返りを実践します。

・アドミッション・ポリシー

「建学の精神」及び「教育方針」に則り、ディプロマ・ポリシーに定めた学修到達目標を実現できる潜在的な力を有した学生を求めて、大学院各専攻及び各学部の入学者受入れ方針を定めます。この方針に基づき、能動的かつ主体的に行動する学生を受入れ、特色ある教育・研究を展開して、社会に奉仕する倫理観ある技術者を育成します。

※学部・学科・大学院の3つのポリシーにつきましては、大学公式 web サイトをご覧ください。

## 広島工業大学専門学校

広島工業大学専門学校には「高度資格取得」と「就きたい仕事に就く」という2つのミッションがあり、国家資格取得率や就職率の高さにその成果が表れています。開校時から企業と密接に連携し、企業実習の実施や企業の声を反映させたカリキュラムで、学校の学びと現場をしっかりとつなげ実践力を高めています。社会での共生や協働も見据え、人間力の養成にも努め、「専門性へのこだわり」と「時代の変化を先取りする感性」を兼ね備えた未来の「ものづくり」人の育成をめざします。

・答えのない課題に向き合う実践力

どんな現場にも対応できる、高い専門性と実践的な技術力を養っています。開校当初から企業と連携し、インターンシップなどの企業実習や技術者を講師にした特別講義などを行ってきました。現実の課題を企業から提示してもらったプロジェクト学習では、答えのない課題に向き合うことで実践力を鍛えています。教育の質の高さは自負するところで、文部科学省の「職業実践専門課程」に認定されています。

・社会に貢献する豊かな人間性

全学科で、人としての素養を高める「生き方講座」を開講。コミュニケーション能力やチャレンジ精神を養い、「人づくり」をしています。近隣地域でボランティア活動なども行い、社会への奉仕とともに地域の人との交流も推進、学外の人と会う機会はさまざまな価値観や視

点に気づききっかけにもなっています。また海外の姉妹校への研修旅行もあり、交流を通じ、人間的にも成長しています。

- ・広島工業大学と連携した深い学び

広島工業大学のキャンパスを利用した学習も行っており、大型設備や先端設備などを使った実習では大学と連携することでより高度で深い専門技術が学べます。学園内推薦制度を設け、編入学も可能です。本学で資格や技能を身につけ、さらに大学で知識を習得することで、より広い視野の深い学びが展開。一層の実力が磨かれ、就職の幅も広がると同時に、新たな可能性も開けます。

#### 広島工業大学高等学校（全日制課程）

生徒の進路目標に応じた3類型5コースを設け、生徒各々に最適な学びを進めています。広島工業大学との教育連携により、普通科でありながら理工系の知識やマインドを育む教育を実践します。急速に変化する社会において、教育科学力育成だけでなく、部活動や異文化交流及び学園行事等も探求学習と位置づけ、21世紀を生き抜く応用力のあるイノベーターを育みます。

- ・高大連携による深い学び

広島工業大学との連携で、大学の研究設備の見学や、最先端機器を使用した実験・計測体験などを実施。大学教授による高校生向けの特別講義なども開催し、ものづくりの真髄に迫ることで大学での学びはもとより、高校の勉強のその先を知る機会をつくっています。高校と大学の7年間でしっかりと人材を育成します。

- ・進路に応じた学習コース

個性やニーズに対応し生徒のめざす進路目標に応じた3つの類型と5つのコースを設定し、効果的な学習をしています。2022年度から新設したK-STEAM類型（CLコース）では、21世紀型の最新の工作機器による”ものづくり”からクリエイティブでイノベティブな人材育成をめざしています。また、広島工業大学との教育連携が進んでおり、学園内推薦制度も設けています。

- ・自ら考え動くことで得る学び

主体性、思考力、判断力を養う学びを推進しています。代表的な施設「アカデミックラーニングcommons（ALC）」は、図書館エリアをはじめ、プレゼンテーションエリアや国際交流エリアなどをひとつにした開放的な自主学習の場です。また6万㎡の敷地と充実した施設を生かし、クラブ活動にも力を入れています。運動部・文化部とも幅広いフィールドで活躍しており、全国大会に進出するクラブも多くあります。

#### 広島工業大学高等学校（通信制課程）

既成の学校のシステムになじめない子どもたちを豊かな自然の中で育てる森の学校です。生徒が自分の心と向き合いながら、能力を引き出せるような学習環境を整えています。単位制の登校型で、イベントや校外活動が多いのが大きな特徴であり、五感を目覚めさせることで、一人ひとりの才能や能力を見つけ、育て、伸ばしていきます。自分に自信をつけて巣立っていった卒業生は、進学や就職、芸術活動など、さまざまな世界で活躍しています。

- ・自立の心が育つ3つの学び

「心と向き合う学び」「交流学习」「テーマ追求型の学び」の3つの学びが、全ての学習活動の中に息づいています。自己理解と自己表現の力を身につけて人間関係を構築する力を育成、意欲的な学びを通じて自信を引き出し、社会的自立をサポートしていきます。さらに台湾語学研修やひとり旅プログラムなどの体験は、自己と向き合いながら新しい自分の発見へとつながります。

- ・自分で設計する単位制カリキュラム

授業を各自でカスタマイズできる単位制と、学びのリズムをつくりやすい4学期制を採用し、自分のペースに合った時間割で学習します。各々の状況と体調に合わせて組まれる時間割は、生徒に心の余裕を持たせ、登校意欲を促します。全ての教員が、全ての生徒の顔と状況を把握し、チームとして丁寧に支えていく体制には、カウンセラーを含めたサポートチームも大きな役割を担っています。

- ・自然の中で五感を覚醒

市街から離れ、山の中の広大なエリアに整備されたキャンパスでの学習活動は、鶴学園だからできる壮大なスケールの学びです。キャンプや農作業、乗馬など自然と一体となった体験型の学びを通じ、五感を覚醒させていきます。動物や陶芸、音楽などのセラピーも導入し、五感を刺激し感性を高めることで、個々人が持つ能力を目覚めさせるとともに、自己肯定感や他者への尊厳を高めていきます。

## 広島なぎさ中学校・高等学校

未来へつながる学力と、世界中のどこでもたくましく生きるための国際性、自らを開発するための創造力・人間力を養うことが、私たちの教育です。大胆な視点で教育を追求し、新しい学びをつくり続けてきました。知識や技能の根底には豊かな感性が必要と考え、多くの体験的な学習を取り入れています。課題解決型の学習では複数の教科学習が、教科区分を超えて布を織るように絡み合い、生きる力につながる学力を育てています。

- ・中高一貫教育でめざす21世紀型の高学力

中高6年間を通じた丁寧に深い学びの基本は「調べる→学ぶ→体験する→伝える」のサイクルで、振り返りによるアウトプットを重視しています。アナログ手法のプレゼンで想像力や感性を磨いたうえで、PCやタブレットなどのデジタルコンテンツを駆使して調べ学習や発表を行います。総合学習では、各自が設定した課題に向きあう探究活動もあり、より高次の学力につなげています。

- ・英語や異文化を日常化 真の国際感覚を磨く

英語授業はネイティブ教員が英語だけで行い、語学スキルだけでなく、実際にコミュニケーションする力を養っています。本学のみならず、学園内の提携校の留学生と交流するなど、年間を通じてさまざまな国の人とふれあいがあります。英語や海外文化に触れることが日常の中にあり、生活の中で国際感覚が備わっていきます。交換留学や研修旅行で日本から飛び出し、広い世界に触れる機会も多く設けています。

- ・創造力と人間力を養う体験型オリジナル教科

本校オリジナルの授業もあります。「創造国際科」は、技術家庭を大胆に改造した授業です。野外活動や伝統文化体験、ロボット製作など、ユニークなプログラムによって好奇心と探究心を引き出し、他教科の学びと結びつけることで、知識と体験が融合します。「人間科」は、自己を理解し、他者や社会と共生するための学びの場です。本校が何より重視する人間力養成を目指す教育の中核を担う授業です。

### なぎさ公園小学校

学ぶことを楽しい、面白いと感じることで自分で考える力を養い、伸びしろの大きな基礎力を身につけます。近年注目されるアクティブラーニングは本校が長年取り組み、授業開発を続けてきた手法でもあり、ノウハウの蓄積は私たちの誇りです。既存の教科を分けることでより効果的な展開になるよう、オリジナルの教科開発もおこなってきました。教科の枠を飛び越えて多教科をリンクさせたプロジェクト学習や、英語教育にも力を入れています。

- ・思考力と表現力を養うアクティブラーニング

知的好奇心、論理的思考力、表現力の3つを21世紀型高学力の中核と位置づけ、開校以来、効果的な手法開発に力を注いできました。アクティブラーニングもそのひとつで、協働やディベート、理論の組み立て、研究発表など座学だけではできない学習活動を通じ、学力だけでなく資質も伸ばしています。本学では教科担任制を採用し、高い教科教育力を持つ教員が良質の授業をおこなっています。

- ・未来に生きるグローバル教育

英語学習は1年生からスタートします。低学年は耳の発達が著しい時期なので、特に発声やリスニングには力を入れ、英語のネイティブによる「フォニックス」学習を導入しているのも特徴です。6年生になると海外ホームステイプログラムもあります。また、実用英語技能検定に向けて学習しています。

- ・人間力と感性豊かなリーダーを育てる

「ほんもの体験」「五感をひらく」教育として、校内ビオトープや学園内の施設などを活用して自然に触れ、日本の季節行事や文化活動を通じ、アイデンティティやしなやかな感性を磨いています。体験が五感を鍛え、豊かな五感が高い学力を紡いでいきます。体験学習はチームで助け合って課題に向き合う機会が多く、思いやりの心や信頼の気持ちを養い、たくましいリーダーを育てます。

(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

学校法人鶴学園第Ⅱ期中期経営計画（2021～2025年度）

2021年度に第Ⅰ期中期経営計画に続いて「学校法人鶴学園第Ⅱ期中期経営計画（2021～2025年度）」を策定しました。

同計画は学園教育理念のもとに、学園及び各学校の中期ビジョンと8つの戦略を定めました。各学校は戦略ごとに具体的な数値目標を決め、ゴールとなる5年後のイメージを全ての教職員が共有するとともに、PDCAサイクルにより実効性を高め、柔軟な学園運営を行っています。

以下、2024年度事業計画の主な取組みについて報告します。

広島工業大学

| 戦略Ⅰ「教育」計画   | 達成度 | 評価・原因・改善   |
|---|-----|--|
| ①新たな教育プログラム「HIT. E-ACTION」の構築及びPDCAサイクルの実行<br>・新たな教育プログラム(2025カリキュラム)の構築に取り組む。              | 達成  | システム設定及び新教育課程実施に向けた準備を完了した。  |
| ②未来創造力を育む取組みの検討<br>・HIT. E-ACTIONの特色ある取組みを検討するとともに、2025年度から開始するための準備を行う。                    | 達成  | HIT. E-ACTIONの教育プログラムの骨子を策定し準備を完了した。   |
| ③オープンエデュケーションの推進<br>・本学の在学生在が専門領域だけでなく、教養も含めた広範囲な知識を習得するための外部教材コンテンツの収集及び活用について、方法を検討し実施する。 | 達成  | リンク集サイトを構築し、100件の外部教材コンテンツを収集した。   |
| ④地域と連携した社会実践プロジェクトの設置<br>・各学科3件のプロジェクト設置に取り組む。  | 未達  | 実施件数は34件に留まった。<br><原因><br>連携先とのニーズや実施のタイミングが合わず実施できなかったほか、計画通りに準備が進まなかった。<br><改善><br>プロジェクトの設置につながる他の取組みを点検する。 |
| ⑤Nexus21教室における設備の更新<br>・教室設備(プロジェクタ交換及び音響以外の設備等)の更新に取り組む。                                   | 達成  | 教室設備の更新を完了した。  |
| ⑥休退学者数低減に向けた施策の効果検証<br>・休退学者数低減に向けた施策の効果検証を行い、改善充実を図る。                                      | 達成  | GPA面談実施対象学生の拡大及び学生支援アドバイザーの役割確認の2件の施策を行った。   |

| 戦略Ⅰ「教育」 計画（続き）  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
|---|-----|--|
| ⑦ものづくり・デジタル・グリーン人材育成に向けた大学改革事業<br>・グリーンエネルギーを支える人材を育成するための新たな教育基盤を構築する。   | 未達  | 改修工事を先行し、機器の導入は次年度に繰越となった。<br>＜原因＞<br>当該機器を用いる授業科目の配当年次が2年次となった。<br>＜改善＞<br>カリキュラムとの整合を図りながら、機器の選定及び調達準備を計画的に進める。                              |
| ⑧デジタルものづくり工場の整備<br>・学生が自由にものづくりを行うことができるデジタル工場を整備する。  | 達成  | 運用体制の構築や機器導入など計画通りに完了した。   |
| 戦略Ⅱ「研究」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①持続可能な社会を創造する研究プロジェクトの推進<br>・SDGsを意識した企業や地域との連携した研究プロジェクトの取組みを支援し、活動成果を公表する。  | 達成  | 合計26件の論文を公表し目標を上回った。   |
| ②本学の特色を活かした重点研究プロジェクトの推進<br>・新設の「フードテック教育研究推進センター」とともに「IoT・AI・データサイエンス教育研究推進センター」及び「地域防災減災教育研究推進センター」を活用して重点研究プロジェクトの推進を図る。 | 達成  | 各センターとも1件、計3件のプレス発表を行った。   |
| ③SDGs貢献活動活性化の推進<br>・2022年度に創設したSDGs学生幹事団（SAM）の活動支援をはじめ、教職学協働でSDGsに貢献する諸活動を推進する。   | 達成  | 5件実施し目標を上回った。  |
| 戦略Ⅲ「入試・広報」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①包括的な戦略に基づく良質な学生確保に向けた広報の展開<br>・国公立等を志願する学力上位層へのアプローチを展開し、併願志願者の拡大に取り組む。  | 達成  | 2025年度入試全体のDM出願歩留まり目標を上回った。  |
| ②女性エンジニア育成の広報展開<br>・学校推薦型選抜（女子特別選抜）の設置に伴う広報ツールの制作に取り組む。   | 未達  | 女子特別選抜の実志願者数は、目標を大きく下回った。<br>＜原因＞<br>女子対象の施策充実に取組んだが、不十分であった。目標数値の設定にも課題があった。<br>＜改善＞<br>新たに、女子学生の入学者数を目標値として設定する事業計画に変更する。女子生徒の認知を高める施策に取り組む。 |

| 戦略Ⅲ「入試・広報」 計画（続き）   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|---|-----|---|
| ③戦略高校及び重点高校との良好な関係の構築<br>・高等学校の事業実施支援による関係構築に取り組む。  | 達成  | DXハイスクール採択校を含む12校の支援を実施した。  |
| ④学部学科改組に伴う新設学科の広報・募集活動の展開<br>・学部学科改組に伴う新設学科の広報活動を行い、学生の確保に取り組む。                                   | 未達  | 学科全体の入学定員充足率は、目標に達しなかった。<br><原因><br>改組広報を始めた時期に課題があり、学生募集状況が悪化するなか、高校生には伝わり切らなかった。<br><改善><br>特に定員充足率の低かった学科の募集広報を強化する。 |
| 戦略Ⅳ「キャリア」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①地元（中・四国地方）の優良企業への就職推進<br>・就職関係行事に地元企業を積極的に誘致し、中国・四国地方に就職する学生の増加を図る。                              | 未達  | 中国・四国地方の企業への就職率は49.6%に留まった。<br><原因><br>関東・関西圏に本社を構える業界への就職が多かった。<br><改善><br>地元企業に学内行事への参加依頼を増やす等、地元就職支援を強化する。           |
| ②地元企業（中・四国地方）を中心としたキャリア支援強化<br>・地元の企業・団体等での就業体験の取組みにおいて HITPO 機能の使用及び教職連携により、学生の積極的参加を促す。         | 達成  | 職場体験学生数は計 582 人であり目標を上回った。  |
| ③学科主体の就職指導體制の推進<br>・学科で独自に取り組んでいる就職支援行事を基盤に、教学支援部支援行事等をリンクさせ効果的な学生支援を行い、学生満足度を高める。                | 達成  | 学生満足度は98.0%であり目標を上回った。  |
| ④離職率低減に向けた取組みの推進<br>・HIT サポーター制度（学生及び若年卒業生の相談窓口として企業で活躍する同窓生に協力いただく制度）の登録企業を増やし、離職率低減に取り組む。       | 達成  | HIT サポーター企業の登録企業数は計 16 社となった。   |
| ⑤企業との関係強化による就職内定率の維持と質の向上<br>・積極的な企業訪問・開拓などの企業情報を就活ナビを用いて全学展開することで、内定率とともに大手企業就職率と専門職率の水準維持向上を図る。 | 達成  | 学部就職率98.8%、大学院就職率100%、大手企業就職率54.3%、専門職率94.2%であった。<br>企業訪問件数は687件であった。   |

| 戦略IV「キャリア」 計画（続き）  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
|--|-----|--|
| ⑥就職支援ツールを IR 利用に資する取組みの推進<br>・就活ナビを IR への活用に資するために利用向上を促しデータベースを充実させる。                                       | 未達  | 機能整備案の検討に至らなかった。<br><原因><br>機能整備による効果を明確に出来なかった。<br><改善><br>利用状況の可視化やユーザー行動の分析などを行い、改修案を検討する。  |
| 戦略V「国際化」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①海外拠点を利用した国際交流の活性化<br>・TWU FAR CENTERの設置及びdouble degree制度の構築に関する検討を行う。<br>・東南アジアを中心に国際交流拠点（本学サテライト）の設置に取り組む。 | 未達  | 拠点を設けることができなかった。<br><原因><br>設置にかかる費用対効果を検討した結果、メリットが少なく見送った。<br><改善><br>今後は東南アジアの日本語学科を持つ大学を対象に、国際交流の活性化を検討する。                               |
| ②教育・研究に関する国際交流事業の拡充<br>・協定大学及び連携可能な大学の確保に取り組む。<br>・国際 PBL、企業体験、サマースクール等の留学制度、単位認定制度及び留学支援制度の構築に取り組む。         | 未達  | 新規連携先は1校に留まった。<br><原因><br>今年度は見送った。<br><改善><br>現状のリソースを元にして、新たな協定や留学プログラムについて引続き検討する。  |
| ③グローバル人材養成プログラムの推進<br>・留学支援制度を活用して留学する学生を増やすための方策を実施する。  | 未達  | 留学支援制度利用者は目標人数に達しなかった。<br><原因><br>留学先（韓国）の政情不安でキャンセルが出たほか、留学費用が高騰した。<br><改善><br>学生のニーズが高い留学プログラムを検討するとともに、異文化理解の促進と留学生との交流機会の拡充により留学希望者を増やす。 |
| 戦略VI「地域連携」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①連携協定の積極的展開及び協定締結先との連携事業の推進<br>・自治体及び企業等との連携協定締結の促進、連携協定締結先との活動強化を図り、教育・研究の充実に取り組む。                          | 達成  | 広島県及び廿日市市との連携事業を13件実施した。   |
| ②HITスクエアを活用した連携事業の促進<br>・HITスクエア会員企業との共同研究及び技術指導等の取組みを推進し、連携事業の促進を図る。  | 達成  | 全部会が合同開催を含めて部会を6件実施した。   |
| ③リカレント教育の推進<br>・リカレント教育の実施に向けて取り組む。  | 達成  | リカレント教育を実施した。  |

| 戦略VI「地域連携」 計画(続き)   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|---|-----|---|
| ④同窓会との組織的な連携推進<br>・同窓生（準会員、正会員）への連絡等が迅速的確に行えるよう、同窓会本部と連携の上、名簿の運営・管理方法の検討に取り組む。  | 未達  | 運営・管理方法計画案の策定に至らなかった。<br><原因><br>同窓会との会合を十分に持つことができなかった。<br><改善><br>2024年度卒業生の情報共有を検証することによって手順を明文化する。                        |
| ⑤初等中等教育における理工学教育への支援<br>・地域企業等と協力し、初等中等教育における理工学教育を支援する。  | 達成  | 全国選抜小学生プログラミング大会を実施した。  |
| 戦略VII「経営・財務」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①競争的資金及び各種プロジェクトにおける外部資金獲得に向けた取組み強化<br>・外部資金（科研費、受託研究費、寄附金等）獲得に向けて有意義な情報の提供に注力し、外部資金獲得に資する取組みを行う。                     | 未達  | 僅かに目標に達しなかった。<br><原因><br>既存の外部資金の獲得支援や、新たな外部資金の獲得などに努め、昨年度より獲得額は約3百万円増加したが僅かに目標に達しなかった。<br><改善><br>科研費の採択者数増及び奨学寄附金増に向けて検討する。 |
| ②PDCA サイクル機能の強化<br>・自主的・自律的な自己点検評価として2023年度から実施している外部評価委員会で指摘された課題への対応及び次期認証評価項目等を参考にして改善に取り組む。                       | 達成  | 外部評価委員会から指摘のあった7項目のうち、6項目の改善を実行した。  |
| ③サーバ環境の維持管理<br>・学園及び大学統合サーバシステムの維持管理を行う。  | 達成  | 安定稼働しており、問題なく維持管理している。  |
| ④コンピュータ教室の更新<br>・コンピュータ教室のシステムの更新を行う。   | 達成  | 大幅なコスト減による環境構築を行った。また、Fab LabのPC環境も併せて整備した。   |
| 戦略VIII「学園内連携」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①学習段階に応じた理工系人材の育成連携<br>・各校との連携を図り、AI/DS、STEAM及びSDGs等、各校の実情に合わせた教育支援を行う。<br>・広島工業大学高等学校 K-STEAM 類型における連携授業の円滑な実施に取り組む。 | 達成  | 連携授業を20回実施し目標を上回った。   |

広島工業大学専門学校

| 戦略Ⅰ「教育」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善   |
|--|-----|--|
| ①企業連携による実務に特化させた授業展開及び学習成果の検証<br>・企業連携授業の学習成果の向上に向けて学生と企業の双方へのアンケートを実施し、その結果を分析する。<br>・専門的実践力を養うため企業連携においてPBL(課題解決型授業)を積極的に活用する。 | 達成  | アンケートを実施し報告書を作成した。   |
| ②コミュニケーション能力の育成のための指導力強化<br>・指導力向上に向けた研修を実施する。   | 達成  | 研修会を実施し指導力の向上を図った。   |
| ③企業等との連携に基づく専門性を高める研修会の実施<br>・各学科が企業と連携した専門性を高める研修に積極的に参加し、その成果を共有するとともに研修報告としてまとめる。   | 達成  | 各学科とも1人以上が企業と連携して研修会に参加し報告書を作成した。  |
| 戦略Ⅲ「入試・広報」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①重点資格試験に向けた取組み<br>・重点資格試験について、出題傾向を分析するとともに可否要因について学生への聞き取り調査を行い、学力を強化し合格率の向上を図る。  | 達成  | 全ての目標を達成した。  |
| ②本校のブランディングの定着と募集活動へのPR<br>・オープンキャンパスにおいて、本校が目指している教育方針にふれる中でロゴ・パーパスの具体的な意味を説明し、募集活動に繋げる。  | 達成  | 校長からオープンキャンパス参加者に教育方針及びロゴ・パーパスの意味を説明しており、出願に結び付いている。   |
| ③オープンキャンパス魅力向上<br>・オープンキャンパス参加者の出願率向上のため、校長裁量経費によるオープンキャンパス魅力向上計画を策定し実施する。   | 達成  | 全学科にて魅力向上策を実施し、報告書を作成した。   |
| ④特色のあるオープンキャンパスの開催<br>・高校生の進路決定が早期になっている状況は今後も続くと思われることから、OBインタビュー会等の特色あるイベントを7月までに開催して参加者の増加を図る。                                | 未達  | オープンキャンパス参加者数は目標を下回った。<br><原因><br>広島県内の志望者層が大学進学に切り替えた影響から9月から3月までのオープンキャンパス参加者数が大きく減少した。<br><改善><br>4月から8月までのオープンキャンパス参加者数を確保すべく対応する。 |
| ⑤ホームページの拡充<br>・各学科の活動状況を写真及び動画を利用して積極的にPRし魅力を発信する。   | 達成  | 各学科とも目標値を達成した。   |

| 戦略Ⅲ「入試・広報」 計画（続き）   | 達成度 | 評価・原因・改善                                    |
|---|-----|---|
| ⑥SNS 広告の実施<br>・オープンキャンパス参加者数の促進を図るため、出願対象者や地域等を限定した SNS 広告を発信する。                      | 達成  | YouTube 広告を 4 月から 8 月まで 4 件実施した。            |
| ⑦SNS を活用した情報発信<br>・高校生が頻繁に利用する SNS を活用したリアルタイムな校内の情報発信を行い、本校への関心を高める。                 | 達成  | 平均アクセス数は 540 件となり、目標値を大きく上回った。              |
| ⑧高校への出張授業の実施<br>・本校への入学者数が多い高校に対して出前授業や本校の学科内容の説明を行うことで興味を持たせるとともに、高校との関係性を構築する。      | 達成  | 出前授業実施報告書を作成した。                             |
| ⑨通信制高校との連携<br>・通信制高校の生徒に対して、学校説明会及び体験学習を実施する。   | 達成  | 通信制高校と連携し、学校見学会を実施すると共に高校へ訪問し、体験学習を二日間実施した。 |
| 戦略Ⅳ「キャリア」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善                                    |
| ①インターンシップの効果の定着<br>・インターンシップの教育効果を学生に定着させるため、インターンシップ事前指導及び事後指導を実施し、参加を促進する。          | 達成  | 事前・事後指導を実施し、100 人がインターンシップに参加した。            |
| ②就職後のアンケート実施と分析<br>・同窓会と連携して、就職後のアンケート調査を実施して結果を分析し、今後の指導に活かす。                        | 達成  | 計画どおりアンケートを実施した。                            |
| ③学科ごとの企業講演会の実施<br>・職業意識を高めるために、「生き方講座」を活用して、学科ごとに企業の方を講師にした講演会を実施する。                  | 達成  | 各学科とも目標値を達成した。                              |
| 戦略Ⅴ「国際化」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善                                    |
| ①SP 校との交換研修への意欲の向上<br>・本校からの参加者による研修報告を全学生の前で発表させるとともに、「生き方講座」の授業で海外交流の意義を説明して参加者を募る。 | 達成  | 7 人の学生が海外研修に参加し、研修報告会を実施した。                 |
| ②SP 校との提携の継続<br>・SP 校からの研修生に対する研修内容を充実させ提携の継続を図る。                                     | 達成  | 学生 15 人引率者 2 人が来校し、相互交流を実施した。               |
| ③留学生の受入れ<br>・本校との交流が深い日本語学校を指定校とし、入学選抜及び授業料減免を行い、安定的に日本語能力の高い外国人留学生を受け入れる。            | 達成  | 日本語学校指定校数を 5 校とし、4 人を受入れた。                  |

| 戦略VI「地域連携」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|--|-----|---|
| ①ボランティア活動の推進<br>・学校周辺の清掃・緑化活動等のボランティア活動を全学的に実施する。                      | 達成  | 3件のボランティア活動に参加した。                                 |
| ②地域社会における「パソコン教室」、「コンサート実習」及び「測量体験教室」の開催<br>・地元の公民館等において「パソコン教室」を開催する。 | 達成  | 当初、2教室開催で準備を行っていたが、会場（公民館）の都合で急遽1回の開催となった。        |
| ・「コンサート実習」を開催し、地域住民に学科の学びを公開する。  | 達成  | YouTube 配信の視聴者を含めると 394 人が来場した。                   |
| ・小中学生を対象とした「測量体験教室」を開催する。  | 達成  | 参加予定者は 21 人であったが、当日の悪天候により日程を再調整した結果 15 人の参加となった。 |
| ・他の3学科も学習内容の公開に向けて取り組む。  | 達成  | 各学科とも目標値を達成した。                                    |
| ③ドローンを活用した地域社会への貢献<br>・「広島県防災ドローン研究会」の指導者として地域住民の防災意識を高める。             | 達成  | 計画どおり実施し、約 70 人が参加した。                             |
| ・「ドローン講習会」を実施して、地域住民に公開する。   | 達成  | 計画どおり実施し、約 30 人が参加した。                             |
| ④本校の教育活動の公開<br>・ホームページに各学科の学成果の取組みや「学習成果プレゼン大会」の状況を公開する。               | 達成  | 情報を公開し、187 件のアクセス数を記録した。                          |
| 戦略VII「経営・財務」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①学科への志願者増<br>・入試広報重点校を選出し、その高校への営業計画案を策定し、確実な出願の確保を促す。                 | 達成  | 重点校選出及び重点校営業計画を策定し実施した。                           |
| ②女子学生の確保を目的とした環境整備<br>・女子学生の志願者を増加させるための環境整備や広報を拡充する。                  | 達成  | 女子学生入学率は 18%に達した。                                 |
| ③退学防止策及び学生満足度調査の検討・実施<br>・退学防止に向けた研修会を実施する。                            | 達成  | 外部講師を招き、研修会を 1 回実施した。                             |
| ④施設・設備の更新<br>・老朽化（設置後 20 年以上）した空調機を更新する。                               | 達成  | 更新を完了した。  |
| ⑤鶴学園 WAN システムの維持管理<br>・鶴学園 WAN の安定した通信の維持管理を行う。                        | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数 0 件を達成した。                            |
| ⑥サーバ環境の維持管理<br>・学園統合サーバシステムの維持管理を行う。                                   | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数 0 件を達成した。                            |

| 戦略Ⅷ「学園内連携」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|---|-----|---|
| ①編入学情報の周知・共有<br>・新入生を対象としてガイダンス期間に実施する「工大編入学説明会」を充実させる。   | 達成  | 説明会を1回実施し、7人が大学に編入した。   |
| ②校内ガイダンスの実施<br>・学園内の高校を対象とした校内ガイダンスを実施する。広島工業大学高等学校OBの在校生に本校での学びの良さに触れる話をさせ、学園内推薦志願者数増を図る。      | 達成  | 広島工業大学高等学校及び広島工業大学高等学校通信制課程の校内ガイダンスを合計2回実施した。   |
| ③広島工業大学高等学校のオープンスクールでの活動<br>・学園内の高校で開催されるオープンスクールに参加し、本校が広島工業大学高等学校から繋がる進路の一つであることを伝え、訴求効果を高める。 | 達成  | 広島工業大学高等学校オープンスクールに2回参加した。  |
| ④学園内各学校の業務への協力<br>・土木工学科、音響映像メディア学科の学びを活かした依頼に対応して、学園内各学校の業務に協力する。                              | 未達  | 学園内から今年度は具体的な依頼が無かった。<br><原因><br>専門学校の特性を学園内に広く周知できていないことが原因と考える。<br><改善><br>学園行事に積極的に参加し、土木工学科、音響映像メディア学科に限らず、学園内連携を図っていく。 |

広島工業大学高等学校（全日制課程）

| 戦略Ⅰ「教育」計画   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|---|-----|---|
| ①新課程入試の傾向と対策<br>・共通テスト新教科の出題傾向の分析を行い、シラバスを改善する。                           | 達成  | 模試検討会の実施や外部研修等での情報を精査しシラバスに反映させた。   |
| ・国公立大学を訪問し、情報収集及び連携強化を図る。   | 達成  | 予定どおり国公立10大学を訪問し、情報収集を行った。  |
| ②探究型授業の充実<br>・理数探究基礎の内容を精査し、改善につなげる。                                      | 達成  | 外部識者による3か年プログラムを構築し、2025年度から年次進行で実施する計画を完成させた。  |
| ・SDGsの視点を組込んだ探究プログラムの内容を実施する。   | 達成  | 特進類型において社会課題型探究にSDGsの視点による探究活動を実施し、探究発表会で発表した。  |
| ③K-STEAM 類型の教育プログラムの開発<br>・STEAM 類型での探究活動成果を外部のコンテストや発表会等に参加する。           | 達成  | 予定どおり EDIX（教育総合展）でブース発表を行い、多くの来場者に成果をアピールした。  |
| ④CLL の外部利用促進<br>・STEAMⅢのプログラムを開発し、実行する。<br>・STEAMⅢのプログラムによる外部対象の体験会を実施する。 | 達成  | 教育プログラムを実行し、CLL 初の外部利用促進となる外部対象体験会を実施した。  |
| ⑤部活動の環境整備<br>・部活動推進における人的及び物的整備を計画する。                                     | 達成  | 教育補助員を予定どおり採用した。MSC（体育館）の空調整備が完了した。   |
| ⑥部顧問の資質向上<br>・効率的かつ合理的な部活動の運営に向けて、専門家による研修会を実施する。                         | 未達  | 研修会の実施を見送った。<br>〈原因〉<br>講師候補者が見つからなかった。<br>〈改善〉<br>本校での部活動の位置づけを明確にしたうえで、働き方との関係性を整理し、研修内容の方向性を探る必要がある。 |
| ⑦サンフレッチェ広島との協力関係の構築<br>・2027年に向け、ジュニアユースからの受入れ体制計画を立案する。                  | 達成  | サンフレッチェ広島との協議により、指導者招聘について検討中である。   |
| 戦略Ⅲ「入試・広報」計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①推薦入試志願者数につながる広報活動の実施<br>・志願者数の維持・向上につながる広報活動計画を立案する。                     | 達成  | オープンスクール実施において、他校の実施日や受験生のニーズを考慮して、計画・実施した。推薦入試志願者は301人、オープンスクール参加者は3,201人であった。                         |

| 戦略Ⅴ「国際化」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|--|-----|---|
| ①Web 国際交流プログラムの実現<br>・対面での交流再開を視野に、Web 交流の計画についても検討する。   | 達成  | 姉妹校のマリーキュリ高校、ケニア及びインドの NPO 法人との交流プログラムとして、ホームステイや課題解決型学習を検討し、実施した。                    |
| 戦略Ⅶ「経営・財務」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①老朽化施設の整備<br>・武道場棟の耐震工事を計画し、2024 年度に実施する。  | 達成  | 2024 年 8 月に完了した。  |
| ・武道館の外壁改修及び屋上防水工事を実施する。  | 達成  | 2024 年 8 月に完了した。  |
| ・クラブハウス受変電室高圧盤の改修を行う。  | 達成  | 2025 年 3 月に完了した。  |
| ・K-STEAM 棟の外壁改修及び屋上防水工事をを行う。   | 達成  | 2025 年 3 月に完了した。  |
| ②鶴学園 WAN システムの維持管理<br>・鶴学園 WAN の安定した通信の維持管理を行う。  | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数 0 件を達成した。  |
| ③サーバ環境の維持管理<br>・学園統合サーバシステムの維持管理を行う。   | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数 0 件を達成した。  |
| ④熱中症対策<br>・MSC (体育館) の空調整備を行う。   | 達成  | 2024 年 9 月に完了し運用を開始した。  |
| ⑤照明設備の更新 (サッカーグラウンド)<br>・サンフレッチェ広島工大高ジュニアユース設立に伴い、練習環境を整備する。   | 達成  | 2024 年 12 月に完了し運用を開始した。   |
| ⑥LED 照明への更新の計画策定<br>・各棟の照明の LED への更新について年次計画を策定する。   | 達成  | 4 か年の更新計画を策定した。   |
| 戦略Ⅷ「学園内連携」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①高大プロジェクトでの教育連携の充実<br>・高大連携プロジェクトの行事を例年通り実施し、内容を評価し、必要であれば改善を加える。<br>・K-STEAM 類型 (CL コース) の魅力ある教育プログラムを実施する。 | 達成  | 高大連携プロジェクトの教育連携は予定どおり実施した。2 年対象の STEAM 探究 I については、大学の協力を得て実施期間を延長した。より一層充実した内容となった。   |
| ②広島工業大学専門学校広報との連携の強化<br>・K-STEAM 類型 (CL コース) との連携について、検討する。  | 達成  | K-STEAM 類型の 1 年生を中心に冬期講習として案内し、6 学科の体験授業及び校内見学会を実施した。受講者はすべて K-STEAM 類型からで、45 人が参加した。 |

広島工業大学高等学校（通信制課程）

| 戦略Ⅰ「教育」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
|---|-----|--|
| ①学習プログラムの体系化と進路選択を広げる新たなカリキュラムの検討<br>・ 治癒教育とキャリア教育を両立させたカリキュラムモデルを策定する。   | 達成  | 表現教育を推進するために、対話型芸術鑑賞を生徒対象に実施した。教員研修を行い、2025年度から創造・表現教育に実際に取組む計画案を作成した。   |
| ②支援を必要とする生徒への教育体制構築の検討<br>・ 多様化する教育ニーズへの体制構築に向けて他の通信制高校や研究機関への視察を行う。  | 未達成 | 他の通信制高校や研究機関への視察を行わなかった。<br><原因><br>本校への教育ニーズの確認や本校の目指す方向性の共有を優先したため、視察対象となる学校を選定することができなかった。<br><改善><br>2025年度は、本校の目指す方向性が定まったので、早い段階で視察校を選定する。 |
| 戦略Ⅲ「入試・広報」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①広報物（学校案内・ホームページ・広報誌等）の刷新と体感型広報行事の検討<br>・ 「知的好奇心」を意図した広報物の内容・デザインへ変更する。また、エンカレ祭や学習発表会等、体感型の広報行事の内容・方法について研究を行う。 | 達成  | 2025年度から広報物の刷新を行った。また、エンカレ祭、学習発表会等及び体感型の広報行事については、実施内容・方法を研究し、新たな取組みが実施できた。  |
| ②広報行事と一体化した入試制度の検討<br>・ 県内通信制高校の入試時期早期化を踏まえ、入試時期を検討するとともに、本校が目指す教育目標の理解の定着と本校らしい入試内容の検討を行う。                     | 達成  | 2025年度から、通信制高校を取り巻く環境を考慮し、入試開始時期を11月に早めることに決めた。また、本校が目指す教育目標を時代に合うものとすることができた。   |
| 戦略Ⅳ「キャリア」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①広島工業大学・広島工業大学専門学校及び企業と連携した学習プログラムの開発<br>・ 専門教育の体験やインターンシップ等による進路への視野拡大を目指す。                                    | 未達成 | 研究報告には至らなかった。<br><原因><br>広島工業大学オープンキャンパスへの参加と進路説明会の実施に留まった。<br><改善><br>2025年度は、広島工業大学専門学校も含めて、連携プログラムに取り組む。                                      |
| ②ポートフォリオを意図した社会的自立支援手帳の開発<br>・ 社会的自立支援手帳を開発し、生徒へのキャリアサポート体制を強化する。   | 達成  | サポート人数は、71人であった。2025年度も継続して取組み、入学3年目の生徒まで拡充する。   |
| 戦略Ⅴ「国際化」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①生き方の視野拡大を目指した学習プログラムの開発<br>・ 新たな学習プログラムとして「台湾体験学習」を実施し、その成果について報告する。   | 達成  | コースの変更を行い、内容は更に充実したものとなった。学習発表会でも実施報告を行った。   |

| 戦略Ⅶ「経営・財務」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善   |
|---|-----|--|
| ①5月1日時点の130人以上の生徒数確保<br>・新入生35人及び転編入生5人を確保し、在校生90人を含む計130人の生徒数を確保する。                  | 未達  | 2025年3月31日時点での在籍生徒数は88人、新入学生及び転入学生は33人となり、合計121人に留まった。<br><原因><br>広報活動を拡充したが、受験者数の増加にはつながらなかった。<br><改善><br>2025年度は、年度内での転入学生の増加にも取り組む。 |
| ②スクールバスの経路変更と効率的運用<br>・スクールバスの経路変更と、西方面（商工センター・JR五日市駅）からの使用者を2023年度時点の26%から40%へ増加させる。 | 未達  | 西方面からの使用者割合は27.2%に留まった。<br><原因><br>西方面からの入学者数が増加していない。<br><改善><br>西方面からの利用者が、年間延べ1,000人程度増加しなければ40%を超えないため、西方面への広報活動強化を検討する必要がある。      |
| ③鶴学園WANシステムの維持管理<br>・鶴学園WANの安定した通信の維持管理を行う。   | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数0件を達成した。   |
| ④サーバ環境の維持管理<br>・学園統合サーバシステムの維持管理を行う。  | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数0件を達成した。   |
| 戦略Ⅷ「学園内連携」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①学校間連携による教育展開<br>・学園内高校生の科目履修者を受け入れる計画案を策定する。   | 達成  | 計画案を策定し、校内(全日制を含む)で制度の共有を図った。2026年度以降に、受入れる体制を整える。   |
| ②非認知能力を育む教育プログラムの構築<br>・不登校特例校の視察を踏まえ、沼田の森の特色を生かした体験的プログラムを策定及び実施する。                  | 達成  | これまで蓄積したプログラムをもとに、各生徒に合ったプログラムを策定・実施した。  |

広島なぎさ中学校・高等学校

| 戦略Ⅰ「教育」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|---|-----|---|
| ①授業評価アンケートを活用した授業改善の推進<br>・年2回の授業評価アンケートを活用し、授業力向上に取り組む。<br>・授業評価アンケートの内容を精査し、より活用できるように整備する。   | 達成  | 外部の授業アンケートを活用し、内容の比較や評価項目の見直し、改善を行った。   |
| ②各教科における ICT 活用計画の構築<br>・生成 AI の利活用に関しての研究を行う。  | 未達  | 研修会の実施が1回に留まった。<br><原因><br>活用が限定的で、2度目の研修会実施までには至らなかった。<br><改善><br>研究を重ね、活用及び研修会の実施を図る。   |
| 戦略Ⅲ「入試・広報」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①「なぎさイズム」の推進<br>・HP やパンフレットをさらにリニューアルし、アピール度を高める。<br>・広報活動の成果について情報収集を図り、改善に生かす。<br>・生徒の活動が可視化できる学校説明会を企画する。<br>・塾や中学校訪問及び入試説明会の効率化を図り、効果的に行う。<br>・進路及び部活動や生徒の自発的活動等を広報活動に積極的に活用する。<br>・なぎさ公園小学校からの進学者の増加を目指す募集戦略を立案する。 | 達成  | 小学生、中学生いずれも各種イベントのアンケート満足度は95%を超えた。   |
| ②生徒募集におけるグローバル化の推進<br>・現地訪問及びHP を活用し、アジア・中東在住者への広報活動に取り組む。<br>・県外や海外からの生徒が入学及び転入できるよう校内体制を整える。<br>・近隣の海外支店のある企業への広報活動を計画し、実施する。   | 未達  | 企業5社及び現地1校に留まった。<br><原因><br>入試要項制作完成後で期間が短く、なぎさ公園小学校との連携も十分図ることができなかった。<br><改善><br>なぎさ公園小学校と広島なぎさ中学校・高等学校で連携し、担当する企業及び訪問時期の早期決定を図る。 |

| 戦略Ⅴ「国際化」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|--|-----|---|
| ①海外交流校との日常的な交流の実現<br>・ポストコロナの海外交流校との交換プログラム内容を充実させるため、見直しを行う。<br>・これまでのオンライン交流を検証し、実施可能かつ効果的な交流を行う。  | 達成  | バサデナ中学校 (NZ)、カセサート大学附属学校 (タイ)、ターストラップ校 (デンマーク)、The Center for Global Studies (アメリカ)、シンガポールポリテクニク校 (シンガポール)、義守大学 (台湾)、高雄市立新莊高級中学 (台湾)、台北市立松山高級工農職業学校 (台湾)、ハマヤスクール学校 (男子、女子) (ドバイ) の 10 校と交流を行った。 |
| ②グローバルマインドを育成する統括的プログラムの作成<br>・長期休業中を利用した短期留学を積極的に推進する。<br>・1年以上の長期留学や海外進学へのサポートを充実させる。<br>・デュアルディプロマプログラムを推進する。<br>・各種海外留学及び進学に関する説明会を計画する。 | 達成  | シンガポールや NZ に 6 人が短期留学をし、デュアルディプロマプログラムも 2 人の卒業生を輩出した。また、海外大学にも 1 人進学した。   |
| 戦略Ⅶ「経営・財務」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①働き方改革関連法への対応<br>・労務管理の徹底を図り、健全な職場環境を構築する。   | 未達  | 労務指導は 2 回に留まった。<br>〈原因〉<br>十分な分析及び労務指導を実施する時間の確保ができなかった。<br>〈改善〉<br>健全な職場に向け、指導環境を整理する。   |
| ②鶴学園 WAN システムの維持管理<br>・鶴学園 WAN の安定した通信の維持管理を行う。  | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数 0 件を達成した。  |
| ③サーバ環境の維持管理<br>・学園統合サーバシステムの維持管理を行う。   | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数 0 件を達成した。  |
| 戦略Ⅷ「学園内連携」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①12 か年一貫教育の総括と課題の共有<br>・英語教育における系統的な学習指導内容を構築する。<br>・生徒の学習及び生活全般における課題を共有し、指導に生かす。   | 達成  | なぎさ公園小学校の授業システムを本校プログラムの中に取り入れることができた。  |
| ②生徒の進路意識を高める教育プランの検討<br>・総合的な学習・探究の時間等を活用し、大学教員による講演や模擬授業などを計画する。  | 達成  | 高等学校 2 年生の学問探究講座で広島工業大学の模擬授業を 2 回行った。高大連携会議で 6 回交流した。   |

なぎさ公園小学校

| 戦略Ⅰ「教育」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|--|-----|---|
| ①コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上<br>・様々な表現活動の充実により、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上を図る。   | 達成  | 音楽会、おはなしの発表会、日本舞踊及びリーダースシアターで行事後の児童の満足度は、80%以上を示した。                                       |
| ②主体性と柔軟な思考の定着<br>・アクティブ・ラーニングの学習形態を生かした協働学習により自ら学ぶ意欲を高めるよう取り組む。  | 達成  | アセスの協働性において、3回分の結果は3年生以上8クラス平均で指標を上回った。友人からの支援により自ら学ぶ意欲が高まった。                             |
| ③異文化・多様性への理解<br>・異文化体験参加者の満足度調査やアンケートを実施する。  | 達成  | ニュージーランドに加え、台湾においても肯定的なアンケートの回答(「とても満足」か「満足」)を得た。   |
| ④各学年に応じた情報活用力の到達目標<br>・到達目標に向けて情報活用力を伸ばす。  | 達成  | ICT 機器を道具の1つとして様々な場面で活用することができた。低学年の iPad、中・高学年の Chromebook とも利用度が高く、情報活用力が向上し、到達目標を達成した。 |
| ⑤各学年の自然体験学習を通して身に付けたい力の到達目標の実践<br>・各学年の自然体験活動について、時期や指導体制を工夫して実施する。  | 達成  | 1年生の学校、2年生の沼田、3年生の八千代に加え、4年生の吉和、5年生の三瓶と予定通りの宿泊体験学習を実施し、各学年の設定目標を達成した。                     |
| 戦略Ⅲ「入試・広報」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①なぎさ公園小学校の教育内容への関心と理解を深める取り組みの実施<br>・NOW、LINK、教育説明会、入試説明会といった学校での募集行事に加えて幼稚園保育園との連携から一つの幼稚園や保育園の年長園児全員に本校を訪問してもらい、本校の見学や体験活動に参加することで、本校への理解を深めファンを増やし、本校への受験につながるよう工夫する。 | 達成  | NOW 及び LINK の参加者の受験率は指標を達成した。   |
| ②入試方法の充実・改善<br>・入試問題の改善やグローバル入試の内容の見直しなどを行い、HP・塾訪問等で周知する。  | 達成  | グローバル入試の見直しを行い、面接において英語か日本語を選択できるようにした。   |
| ③「なぎさ style」の学びの展望を示す取り組みの実施<br>・在校生・保護者の満足度を高めるとともに、塾等の説明会で12年一貫教育の意義を広め弟妹志願率を高める。  | 達成  | 在校生の年長兄弟妹全員が受験に至った。   |
| ④「なぎさ style」の教育への理解を深める取り組みの実施<br>・HP・なぎさブログやInstagramなどの情報の速やかな更新及び新聞・雑誌への投稿を積極的に行う。  | 達成  | なぎさ登録者は順調に増え、指標を上回った。   |

| 戦略V「国際化」計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
|---|-----|--|
| ①4領域の目標を明確にした取組みの実施<br>・「話す・聞く・読む・書く」の各領域の目標(goal)を設定し、達成率を高める。                       | 達成  | 英検5級の合格率は指標を達成した。  |
| ・コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身に付けさせるため、他教科と関連した探究的な学習活動を通して英語の活用力を高める。                      | 達成  | レシテーションコンテストの振返りにおいて80%が満足したと答えた。  |
| ②国内外における異文化体験プログラムの構築<br>・質の高い海外での異文化体験プログラム(ニュージーランド・台湾)及び国内でのイングリッシュキャンプを実施する。      | 達成  | ニュージーランド、台湾、イングリッシュキャンプ全ての参加児童から肯定的な回答(「とても満足」か「満足」)を得た。                 |
| 戦略VII「経営・財務」計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①安定した定員確保に向けた改善策の構築<br>・なぎさ style の教育への理解のもとにA0入試の特色を生かした積極的な募集活動に取り組むことで収容定員の確保に努める。 | 達成  | 収容定員を超える児童数を確保できた。   |
| ②鶴学園応援プロジェクト寄付金の目的・使途等の普及<br>・HPや学園共通パンフレット等により、学校内外に周知する。                            | 達成  | 目標を上回る寄付金を獲得できた。   |
| ③教育ICT環境整備<br>・GIGAスクール構想を前倒し対応する(タブレットの一人1台環境・ICTの更なる活用加速)。                          | 達成  | Chromebook等の契約を更新し、ICT環境を整備した。   |
| ・プログラミング教育必修化に対応して無線LAN設備の再整備及び各教室のICT環境整備を行う。  | 達成  | 各教室の状況に応じてICT環境を整備した。  |
| ④空調設備の更新<br>・主要な空調設備(GHP 室外機18機、空調機87台、空冷 室外機7機、空調機17台)の更新を行う。                        | 達成  | 予定どおり夏季休暇中に工事を行い、空調設備を更新した。  |
| ⑤鶴学園WANシステムの維持管理<br>・鶴学園WANの安定した通信の維持管理を行う。   | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数0件を達成した。   |
| ⑥サーバ環境の維持管理<br>・学園統合サーバシステムの維持管理を行う。  | 達成  | 安定稼働し、障害発生件数0件を達成した。   |
| 戦略VIII「学園内連携」計画   | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①同窓会設立へ向けて同窓生保護者への働きかけ<br>・同窓生の保護者からも同窓会の設立への機運を盛り上げてもらうため、保護者対象の校内見学会や会合を計画し開催する。    | 達成  | 計10回の会合を実施した。1月4日には1・2期生と保護者が集まり、同窓会について意見交換を行った。                        |
| ②広島なぎさ中学校との連携プログラムの構築<br>・教科や合唱部の活動などで連携したプログラムを実施する。                                 | 達成  | 合唱部の連携をはじめ、小学生のNST(nagisa study time)に中学生が放課後教師役として出前参加するなど計10回の連携を実施した。 |

法人局

| 戦略Ⅰ「教育」 計画   | 達成度 | 評価・原因・改善   |
|--|-----|--|
| ①課外プログラムの継続的な開発と実施に向けた支援体制の構築<br>・ 野外活動型プログラムの継続の開発及び既存プログラムの継続の実施に向けた体制を整備する。                       | 達成  | 継続の実施に向けた体制整備が概ね整った。   |
| ・ 教育課程内の学びや部活動を深める課外プログラムの開発、実施及び支援を行う。  | 達成  | プログラムを3件開発した。  |
| 戦略Ⅲ「入試・広報」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①鶴学園ブランドの展開<br>・ 学園及び各校のブランドについて、引き続きインナー及びアウターに対する浸透を図る。<br>・ 学園及び各校のブランドについて、創立70周年記念事業との連携策を検討する。 | 達成  | インナー・アウター併せて4件のブランディングを実施した。また、創立70周年記念事業の一環としてパーパスやロゴを活用した特設サイトを新たに立ち上げた。 |
| 戦略Ⅶ「経営・財務」 計画  | 達成度 | 評価・原因・改善   |
| ①寄付金事業の見直し<br>・ 寄付金収入増に向けてファンドレイジングの概念を取り入れ、寄付金事業の見直しを行う。  | 達成  | 各会計単位の事務担当者を対象とした勉強会を実施し、その後懸案事項のヒアリングを行った。ヒアリング結果を取りまとめ、業務フローを見直した。       |
| ・ 寄付金事業と周年事業の連携を図る。  | 達成  | 寄付金部会にて周年事業に係る寄付の概要を検討し、取りまとめた。  |
| ②学校法人鶴学園第Ⅱ期中期経営計画中間報告対応及び第Ⅲ期中期計画策定<br>・ 第Ⅱ期中期経営計画中間報告に対する対応に取り組む。                                    | 達成  | 中間報告を実施した。   |
| ・ 2026年～2030年を対象とする第Ⅲ期中期経営計画・財務計画策定に取り組む。  | 達成  | 第Ⅲ期中期経営計画・財務計画策定の基となる長期ビジョンの素案を作成した。                                       |
| ③新人事・処遇制度の導入<br>・ 給与構造の改革及びそれに基づく新人事処遇制度を導入するため、これまでの検討結果を踏まえた原案を策定する。                               | 達成  | 新しい評価シートを使用した試行運用を実施した。等級制度及び手当等については、国の動きを踏まえ次年度に延長して検討する。                |
| ④教職員が健康で働きやすい職場環境の整備<br>・ 週休2日制を全会計単位で実施する。  | 達成  | 令和7年度から全会計単位において週休2日制を実施することで調整を行い、学園内周知を実施した。                             |
| ・ 事務組織再編に係る点検を行い、その対応を検討する。  | 達成  | 点検結果を定性面・定量面に関する報告書にまとめ、課題に対する対応案を策定した。                                    |

| 戦略Ⅶ「経営・財務」 計画（続き）   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|---|-----|---|
| ⑤法改正に係る寄附行為等への対応<br>・「学校法人鶴学園寄附行為」の一部改正を行う。   | 達成  | 寄附行為変更について、令和7年2月4日付けで文部科学大臣の認可を受けた。  |
| ・私学法改正に係るガバナンス体制、理事会及び評議員会の在り方について検討する。<br>・私学法改正に係る対応として法人組織の点検を行い対応を検討する。<br>・承認プロセスの検討を行う。 | 未達  | 内部統制の基本方針は策定したが、その他については結論に至らなかった。<br>〈原因〉<br>寄附行為変更、内部統制の基本方針の策定及び関係規程の点検・整理等に時間を要した。<br>〈改善〉<br>寄附行為及び内部統制の基本方針に基づき、残された課題について引続き検討を行い、結論を得る。 |
| ⑥株式会社クレインパートナーズとの連携<br>・学園による監督体制の強化を行う。  | 達成  | 第1期決算報告及び第2期事業計画を理事会へ報告した。  |
| ・業務委託を含む株式会社クレインパートナーズとの連携について検討する。   | 達成  | 検討を完了し、業務委託契約を締結した。   |
| ⑦学園施設設備の長期整備計画策定<br>・施設設備のライフサイクルに基づく長期的な整備計画を策定する。   | 未達  | 計画案作成に至らなかった。<br>〈原因〉<br>キャンパスごとの建物評価に必要な専門的な視点での情報収集が進まなかった。<br>〈改善〉<br>外部業者と連携した評価プロセスを導入し、計画案作成を目指す。   |
| ⑧広島工業大学新校舎建築<br>・2025年度改組に伴う新校舎の設計を行い建築に着手する。   | 達成  | 設計を完了し、建築に着手した。   |
| ⑨広島工業大学専門学校福島校舎耐震検討<br>・広島工業大学専門学校福島校舎の耐震設計を行う。   | 達成  | 耐震設計を完了した。  |
| ⑩広島工業大学専門学校福島校舎外壁改修<br>・広島工業大学専門学校福島校舎の外壁改修の見積書を徴し、外壁改修を検討し経営判断を行う。                           | 達成  | 検討を完了し、改修計画を策定した。   |
| ⑪広島工業大学高等学校新校舎建築検討<br>・建設候補地の検討を行う。<br>・専門業者への聞き取り及び他校を視察する。<br>・新校舎建設計画を策定し経営判断を行う。          | 未達  | 候補地の選定に至らなかった。<br>〈原因〉<br>広島工業大学高等学校の教育方針及び必要な教室数の検討に時間を要した。<br>〈改善〉<br>建物面積、将来拡張性、建築費など優先順位を明確にし、計画案作成を目指す。                                    |
| ⑫中島校舎取壊し検討<br>・中島校舎の解体見積書を徴し、取壊しの経営判断を行う。   | 達成  | 検討を完了し、取壊しに着手した。  |

| 戦略Ⅶ「経営・財務」 計画（続き）   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
|---|-----|---|
| ⑬広島校舎将来計画検討<br>・広島校舎の将来計画について検討を行う。   | 未達  | 解体後の将来計画案作成には至らなかった。<br><原因><br>跡地利用のニーズ、要件整理に着手するための時間が不足した。<br><改善><br>必要なリソースを割り当て、計画策定のための調査に着手する。        |
| ⑭学園創立 70 周年記念事業の実施<br>・大学新校舎建設に係る寄付金募集を含む学園創立 70 周年記念事業に着手する。                         | 達成  | 70 周年記念事業委員会及び事務局を立ち上げて、記念事業の事業計画検討に着手した。   |
| ⑮「経営事務職員人材育成計画」の改正<br>・近年の採用実績を踏まえた「職員階層」の見直し、また、新人事処遇制度と連動した人材育成計画の改正に取り組む。          | 未達  | 試行運用に至らなかった。<br><原因><br>原案は作成しているが、新人事・処遇制度の導入が遅れているため育成計画に反映できなかった。<br><改善><br>新人事・処遇制度が導入され次第、育成計画に反映し運用する。 |
| ⑯鶴学園 WAN システムの維持管理<br>・鶴学園 WAN の安定した通信の維持管理を行う。                                       | 達成  | 問題なく安定稼働し、障害発生件数 0 件を達成した。  |
| ⑰サーバ環境の維持管理<br>・学園統合サーバシステムの維持管理を行う。  | 達成  | 問題なく安定稼働し、障害発生件数 0 件を達成した。  |
| 戦略Ⅷ：学園内連携   | 達成度 | 評価・原因・改善  |
| ①なぎさ公園小学校と広島なぎさ中学校・高等学校の連携強化の支援<br>・なぎさ公園小学校高学年と広島なぎさ中学校低学年を 1 つの区分とした連携強化策の定着の支援をする。 | 達成  | 数理・言語それぞれの測定、分析及び課題の指摘を行い、次年度に向けた具体的な体制構築の道筋をつけた。   |

### 3. 財務の概要

#### (1) 決算の概要

##### ① 資金収支計算書（活動区分含む）の概要（2024年4月1日から2025年3月31日）

2024年度の資金収支において、収入総額は148億4,693万円、支出総額は175億3,506万円となり（収支とも繰越支払資金を除く）、収支は26億8,813万円の支出超過となりました（前年度比：-487%）。その結果、翌年度繰越支払資金は72億3,310万円（同：-27.1%）となりました。

（単位：円）

| 科目          | 予算              | 決算              | 差異              |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 学生生徒等納付金収入  | 8,021,553,300   | 8,075,521,300   | △ 53,968,000    |
| 手数料収入       | 104,221,808     | 104,238,216     | △ 16,408        |
| 寄付金収入       | 43,440,000      | 60,041,959      | △ 16,601,959    |
| 補助金収入       | 2,624,170,172   | 2,697,100,666   | △ 72,930,494    |
| 資産売却収入      | 0               | 0               | 0               |
| 付随事業・収益事業収入 | 104,351,959     | 133,586,228     | △ 29,234,269    |
| 受取利息・配当金収入  | 77,847,448      | 89,998,844      | △ 12,151,396    |
| 雑収入         | 181,063,513     | 243,904,998     | △ 62,841,485    |
| 借入金等収入      | 0               | 0               | 0               |
| 前受金収入       | 1,451,555,000   | 1,324,982,600   | 126,572,400     |
| その他の収入      | 3,455,455,720   | 4,416,649,161   | △ 961,193,441   |
| 資金収入調整勘定    | △ 2,347,973,776 | △ 2,299,089,287 | △ 48,884,489    |
| 前年度繰越支払資金   | 9,921,226,403   | 9,921,226,403   | 0               |
| 収入の部合計      | 23,636,911,547  | 24,768,161,088  | △ 1,131,249,541 |
| 人件費支出       | 5,160,509,058   | 5,167,498,392   | △ 6,989,334     |
| 教育研究経費支出    | 3,184,539,475   | 2,763,147,987   | 421,391,488     |
| 管理経費支出      | 1,006,673,301   | 924,103,477     | 82,569,824      |
| 借入金等利息支出    | 2,594,684       | 2,594,684       | 0               |
| 借入金等返済支出    | 102,075,000     | 214,004,000     | △ 111,929,000   |
| 施設関係支出      | 2,155,430,324   | 2,576,151,576   | △ 420,721,252   |
| 設備関係支出      | 873,031,406     | 653,025,976     | 220,005,430     |
| 資産運用支出      | 1,219,739,523   | 1,912,860,672   | △ 693,121,149   |
| その他の支出      | 3,542,835,221   | 3,784,445,413   | △ 241,610,192   |
| 資金支出調整勘定    | △ 226,491,231   | △ 462,768,996   | 236,277,765     |
| 翌年度繰越支払資金   | 6,375,974,786   | 7,233,097,907   | △ 857,123,121   |
| 支出の部合計      | 23,636,911,547  | 24,768,161,088  | △ 1,131,249,541 |

|                |                   |
|----------------|-------------------|
| 繰越金を含まない資金収入の額 | 14,846,934,685 円  |
| 繰越金を含まない資金支出の額 | 17,535,063,181 円  |
| 差 額            | △ 2,688,128,496 円 |

② 事業活動収支計算書の概要（2024年4月1日から2025年3月31日）

事業活動収支において、事業活動収入計は114億96万円（前年度比+5.0%）でした。主な収入内訳は学生生徒等納付金80億7,552万円（同-4.0%）、経常費等補助金17億2,841万円（同-3.8%）でした。一方、事業活動支出計は102億7,098万円（同+0.9%）となりました。主な支出内訳は人件費51億7,641万円（同+0.2%）、教育研究経費39億619万円（同+1.6%）、管理経費10億5,649万円（同-0.4%）でした。その結果、基本金組入前当年度収支差額は11億2,998万円（同+67.0%）となりました。

（単位：円）

|               | 科目           | 予算               | 決算               | 差異              |               |
|---------------|--------------|------------------|------------------|-----------------|---------------|
|               |              |                  |                  |                 |               |
| 教育活動収支        | 収入の部<br>事業活動 | 学生生徒等納付金         | 8,021,553,300    | 8,075,521,300   | △ 53,968,000  |
|               |              | 手数料              | 104,221,808      | 104,238,216     | △ 16,408      |
|               |              | 寄付金              | 34,799,000       | 35,960,959      | △ 1,161,959   |
|               |              | 経常費等補助金          | 1,639,500,172    | 1,728,405,666   | △ 88,905,494  |
|               |              | 付随事業収入           | 104,351,959      | 133,601,469     | △ 29,249,510  |
|               |              | 雑収入              | 171,492,513      | 233,253,739     | △ 61,761,226  |
|               |              | 教育活動収入計          | 10,075,918,752   | 10,310,981,349  | △ 235,062,597 |
|               | 支出の部<br>事業活動 | 人件費              | 5,172,370,058    | 5,176,410,907   | △ 4,040,849   |
|               |              | 教育研究経費           | 4,327,113,155    | 3,906,193,260   | 420,919,895   |
|               |              | 管理経費             | 1,146,139,578    | 1,056,493,557   | 89,646,021    |
|               |              | 徴収不能額等           | 0                | 0               | 0             |
|               |              | 教育活動支出計          | 10,645,622,791   | 10,139,097,724  | 506,525,067   |
|               | 教育活動収支差額     |                  | △ 569,704,039    | 171,883,625     | △ 741,587,664 |
| 教育活動外収支       | 収入の部<br>事業活動 | 受取利息・配当金         | 77,847,448       | 89,998,844      | △ 12,151,396  |
|               |              | その他の教育活動外収入      | 0                | 0               | 0             |
|               |              | 教育活動外収入計         | 77,847,448       | 89,998,844      | △ 12,151,396  |
|               | 支出の部<br>事業活動 | 借入金等利息           | 2,594,684        | 2,594,684       | 0             |
|               |              | その他の教育活動外支出      | 0                | 0               | 0             |
|               |              | 教育活動外支出計         | 2,594,684        | 2,594,684       | 0             |
| 教育活動外収支差額     |              | 75,252,764       | 87,404,160       | △ 12,151,396    |               |
| 経常収支差額        |              | △ 494,451,275    | 259,287,785      | △ 753,739,060   |               |
| 特別収支          | 収入の部<br>事業活動 | 資産売却差額           | 0                | 0               | 0             |
|               |              | その他の特別収入         | 993,311,000      | 999,975,665     | △ 6,664,665   |
|               |              | 特別収入計            | 993,311,000      | 999,975,665     | △ 6,664,665   |
|               | 支出の部<br>事業活動 | 資産処分差額           | 52,746,310       | 129,284,388     | △ 76,538,078  |
|               |              | その他の特別支出         | 0                | 0               | 0             |
|               |              | 特別支出計            | 52,746,310       | 129,284,388     | △ 76,538,078  |
| 特別収支差額        |              | 940,564,690      | 870,691,277      | 69,873,413      |               |
| 〔予備費〕         |              | 92,000,000       | 0                | 92,000,000      |               |
| 基本金組入前当年度収支差額 |              | 354,113,415      | 1,129,979,062    | △ 775,865,647   |               |
| 基本金組入額合計      |              | △ 2,980,687,555  | △ 2,454,111,532  | △ 526,576,023   |               |
| 当年度収支差額       |              | △ 2,626,574,140  | △ 1,324,132,470  | △ 1,302,441,670 |               |
| 前年度繰越収支差額     |              | △ 11,575,120,371 | △ 11,575,120,371 | 0               |               |
| 基本金取崩額        |              | 0                | 0                | 0               |               |
| 翌年度繰越収支差額     |              | △ 14,201,694,511 | △ 12,899,252,841 | △ 1,302,441,670 |               |
| (参考)          |              |                  |                  |                 |               |
| 事業活動収入計       |              | 11,147,077,200   | 11,400,955,858   | △ 253,878,658   |               |
| 事業活動支出計       |              | 10,792,963,785   | 10,270,976,796   | 521,986,989     |               |

③ 貸借対照表の概要（2025年3月31日）

資産の部合計は前年度末 546 億 1,295 万円から 558 億 9,079 万円に増加しました。負債の部合計は前年度末 44 億 4,579 万円から 45 億 9,366 万円に増加しました。

（単位：円）

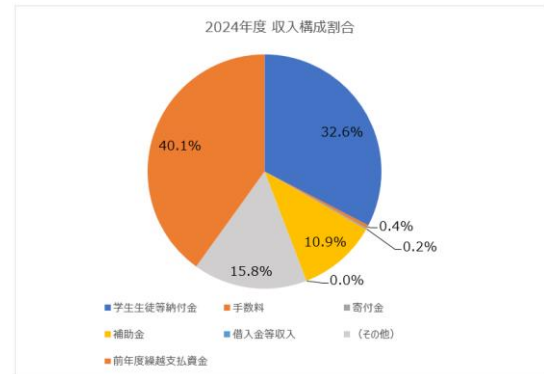
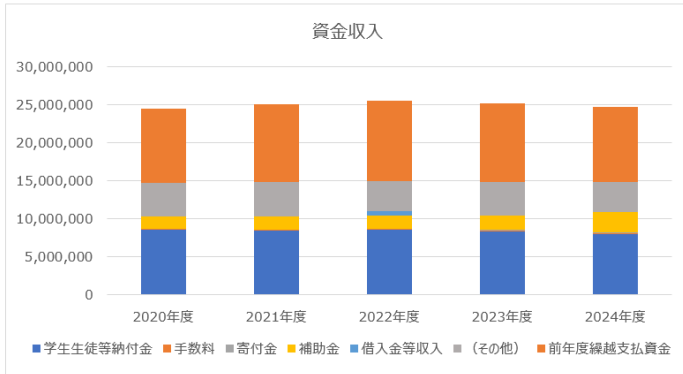
| 資産の部           |                  |                  |                 |
|----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 科目             | 2024年度末          | 2023年度末          | 増減              |
| 固定資産           | 47,328,530,778   | 44,395,274,807   | 2,933,255,971   |
| 有形固定資産         | 39,137,965,557   | 37,287,058,292   | 1,850,907,265   |
| 特定資産           | 7,911,976,399    | 6,703,161,827    | 1,208,814,572   |
| 退職給与引当特定資産     | 336,134,000      | 336,134,000      | 0               |
| 減価償却引当特定資産     | 6,236,023,876    | 5,036,023,876    | 1,200,000,000   |
| 第3号基本金引当特定資産   | 1,200,000,000    | 1,200,000,000    | 0               |
| 鶴巻教育振興助成引当特定資産 | 39,818,523       | 31,003,951       | 8,814,572       |
| 学科設備等拡充引当特定資産  | 100,000,000      | 100,000,000      | 0               |
| その他の固定資産       | 278,588,822      | 405,054,688      | △ 126,465,866   |
| 流動資産           | 8,562,261,060    | 10,217,673,837   | △ 1,655,412,777 |
| 資産の部合計         | 55,890,791,838   | 54,612,948,644   | 1,277,843,194   |
| 負債の部           |                  |                  |                 |
| 科目             | 2024年度末          | 2023年度末          | 増減              |
| 固定負債           | 2,403,024,820    | 2,636,807,398    | △ 233,782,578   |
| 流動負債           | 2,190,632,996    | 1,808,986,286    | 381,646,710     |
| 負債の部合計         | 4,593,657,816    | 4,445,793,684    | 147,864,132     |
| 純資産の部          |                  |                  |                 |
| 科目             | 2024年度末          | 2023年度末          | 増減              |
| 基本金            | 64,196,386,863   | 61,742,275,331   | 2,454,111,532   |
| 第1号基本金         | 62,353,386,863   | 59,899,275,331   | 2,454,111,532   |
| 第3号基本金         | 1,200,000,000    | 1,200,000,000    | 0               |
| 第4号基本金         | 643,000,000      | 643,000,000      | 0               |
| 繰越収支差額         | △ 12,899,252,841 | △ 11,575,120,371 | △ 1,324,132,470 |
| 翌年度繰越収支差額      | △ 12,899,252,841 | △ 11,575,120,371 | △ 1,324,132,470 |
| 純資産の部合計        | 51,297,134,022   | 50,167,154,960   | 1,129,979,062   |
| 負債及び純資産の部合計    | 55,890,791,838   | 54,612,948,644   | 1,277,843,194   |

④ 財務状況の5か年推移資金収支計算書の推移（2020年度～2024年度）

資金収入の部

(単位：千円)

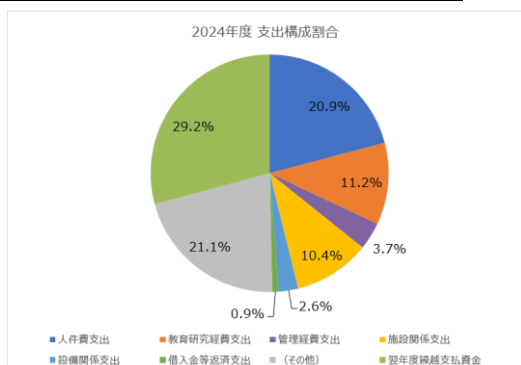
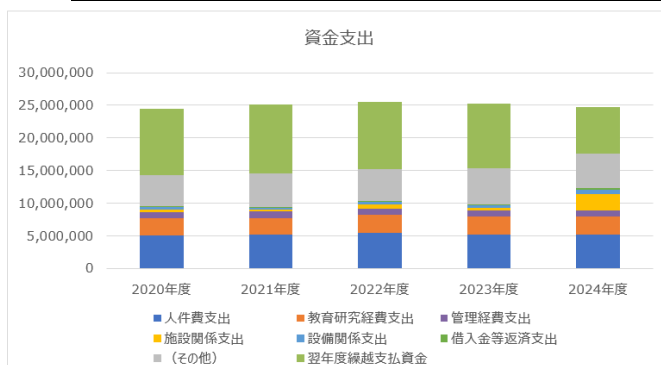
|           | 2020年度     | 2021年度     | 2022年度     | 2023年度     | 2024年度     |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 学生生徒等納付金  | 8,543,726  | 8,493,862  | 8,556,735  | 8,407,745  | 8,075,521  |
| 手数料       | 135,216    | 130,721    | 121,829    | 101,959    | 104,238    |
| 寄付金       | 58,474     | 24,775     | 56,464     | 54,288     | 60,042     |
| 補助金       | 1,656,906  | 1,709,809  | 1,705,705  | 1,873,775  | 2,697,101  |
| 借入金等収入    | 0          | 0          | 594,000    | 0          | 0          |
| (その他)     | 4,353,213  | 4,486,165  | 4,013,959  | 4,397,323  | 3,910,033  |
| 前年度繰越支払資金 | 9,750,193  | 10,235,922 | 10,520,785 | 10,378,948 | 9,921,226  |
| 収入の部合計    | 24,497,727 | 25,081,254 | 25,569,477 | 25,214,039 | 24,768,161 |



資金支出の部

(単位：千円)

|           | 2020年度     | 2021年度     | 2022年度     | 2023年度     | 2024年度     |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 人件費支出     | 5,069,279  | 5,206,816  | 5,440,689  | 5,196,761  | 5,167,498  |
| 教育研究経費支出  | 2,688,928  | 2,547,510  | 2,781,997  | 2,701,823  | 2,763,148  |
| 管理経費支出    | 879,574    | 933,571    | 975,154    | 919,721    | 924,103    |
| 施設関係支出    | 316,543    | 261,960    | 640,939    | 474,555    | 2,576,152  |
| 設備関係支出    | 521,779    | 295,363    | 370,274    | 358,062    | 653,026    |
| 借入金等返済支出  | 106,500    | 106,500    | 185,081    | 196,988    | 214,004    |
| (その他)     | 4,679,203  | 5,208,749  | 4,796,395  | 5,444,902  | 5,237,132  |
| 翌年度繰越支払資金 | 10,235,922 | 10,520,785 | 10,378,948 | 9,921,226  | 7,233,098  |
| 支出の部合計    | 24,497,727 | 25,081,254 | 25,569,477 | 25,214,039 | 24,768,161 |

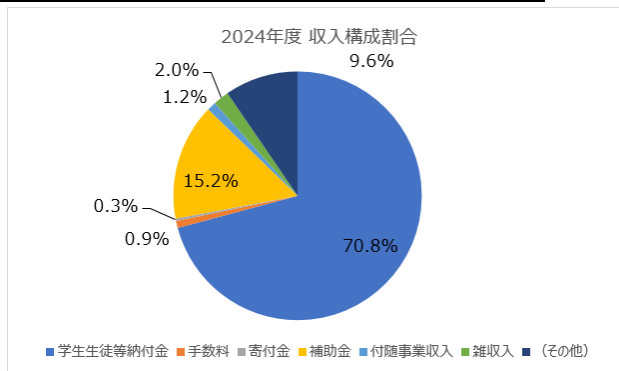
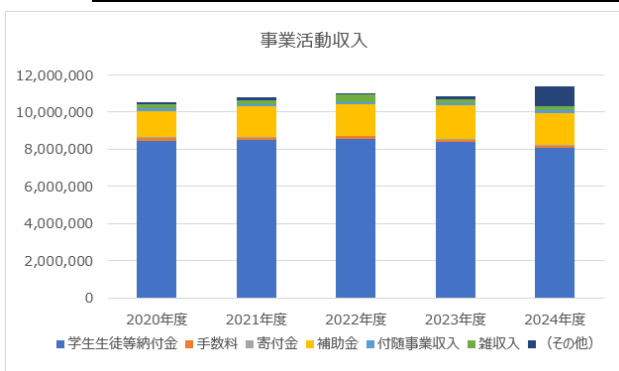


## 事業活動収支の推移（2020年度～2024年度）

### 事業活動収入の部

（単位：千円）

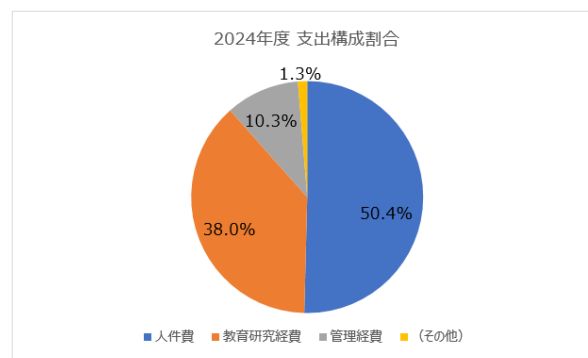
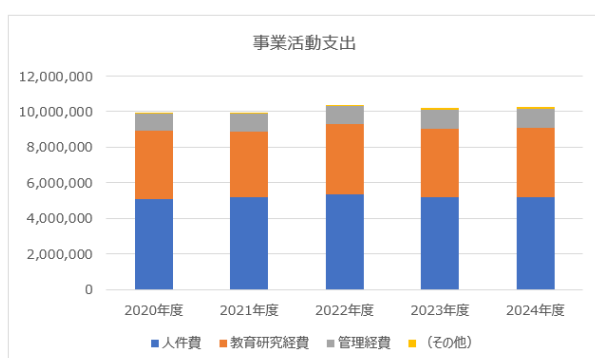
|          | 2020年度     | 2021年度     | 2022年度     | 2023年度     | 2024年度     |
|----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 学生生徒等納付金 | 8,451,684  | 8,493,862  | 8,556,735  | 8,407,745  | 8,075,521  |
| 手数料      | 151,597    | 130,721    | 121,829    | 101,959    | 104,238    |
| 寄付金      | 43,893     | 23,135     | 45,554     | 43,818     | 35,961     |
| 補助金      | 1,409,373  | 1,648,626  | 1,695,606  | 1,796,740  | 1,728,406  |
| 付随事業収入   | 135,681    | 136,977    | 108,161    | 127,828    | 133,601    |
| 雑収入      | 232,145    | 203,076    | 400,530    | 213,817    | 233,254    |
| （その他）    | 83,203     | 127,568    | 100,004    | 164,161    | 1,089,975  |
| 事業活動収入計  | 10,507,576 | 10,763,964 | 11,028,419 | 10,856,068 | 11,400,956 |



### 事業活動支出の部

（単位：千円）

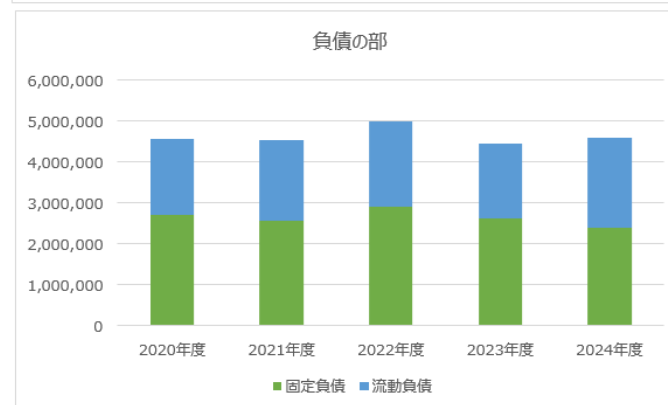
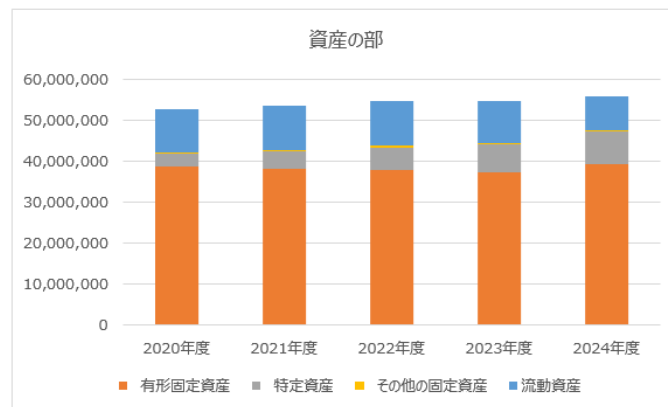
|         | 2020年度    | 2021年度    | 2022年度     | 2023年度     | 2024年度     |
|---------|-----------|-----------|------------|------------|------------|
| 人件費     | 5,073,699 | 5,174,592 | 5,343,048  | 5,163,676  | 5,176,411  |
| 教育研究経費  | 3,854,945 | 3,704,961 | 3,929,583  | 3,845,267  | 3,906,193  |
| 管理経費    | 953,781   | 1,016,210 | 1,058,474  | 1,060,728  | 1,056,494  |
| （その他）   | 18,502    | 10,725    | 12,383     | 109,857    | 131,879    |
| 事業活動支出計 | 9,900,927 | 9,906,488 | 10,343,488 | 10,179,528 | 10,270,977 |



貸借対照表の推移（2020年度～2024年度）

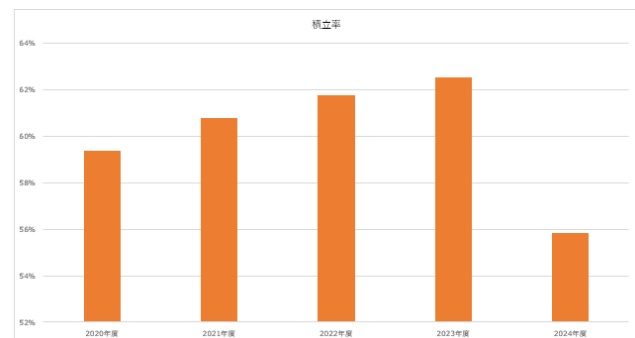
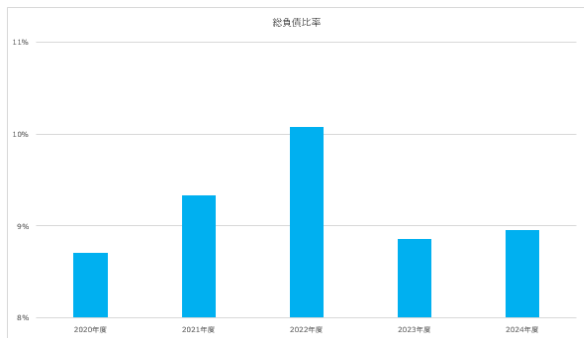
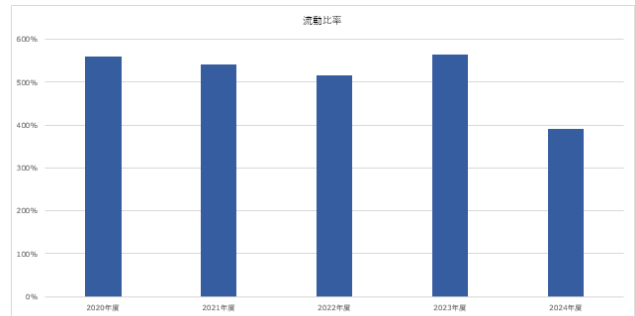
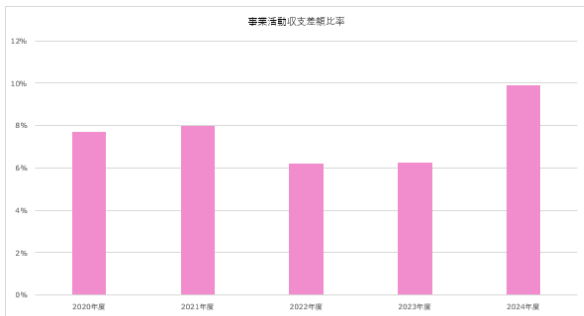
（単位：千円）

| 資産の部        |              |              |              |              |              |
|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 科 目         | 2020年度       | 2021年度       | 2022年度       | 2023年度       | 2024年度       |
| 固定資産        | 42,096,977   | 42,622,425   | 43,712,745   | 44,395,275   | 47,328,531   |
| 有形固定資産      | 38,685,766   | 38,032,217   | 37,817,503   | 37,287,058   | 39,137,966   |
| 特定資産        | 3,072,125    | 4,278,625    | 5,478,425    | 6,703,162    | 7,911,976    |
| その他の固定資産    | 339,086      | 311,583      | 416,817      | 405,055      | 278,589      |
| 流動資産        | 10,421,421   | 10,735,640   | 10,761,817   | 10,217,674   | 8,562,261    |
| 現金預金        | 10,235,922   | 10,520,785   | 10,378,948   | 9,921,226    | 7,233,098    |
| 資産の部合計      | 52,518,397   | 53,358,065   | 54,474,562   | 54,612,949   | 55,890,792   |
| 負債の部        |              |              |              |              |              |
| 科 目         | 2020年度       | 2021年度       | 2022年度       | 2023年度       | 2024年度       |
| 固定負債        | 2,705,937    | 2,571,498    | 2,900,333    | 2,636,807    | 2,403,025    |
| 流動負債        | 1,864,252    | 1,980,883    | 2,083,613    | 1,808,986    | 2,190,633    |
| 前受金         | 1,400,478    | 1,454,449    | 1,439,057    | 1,149,552    | 1,324,983    |
| 負債の部合計      | 4,570,190    | 4,552,381    | 4,983,947    | 4,445,794    | 4,593,658    |
| 純資産の部       |              |              |              |              |              |
| 科 目         | 2020年度       | 2021年度       | 2022年度       | 2023年度       | 2024年度       |
| 基本金         | 59,612,724   | 60,316,710   | 61,149,279   | 61,742,275   | 64,196,387   |
| 第1号基本金      | 58,969,724   | 59,073,710   | 59,306,279   | 59,899,275   | 62,353,387   |
| 第3号基本金      | 0            | 600,000      | 1,200,000    | 1,200,000    | 1,200,000    |
| 第4号基本金      | 643,000      | 643,000      | 643,000      | 643,000      | 643,000      |
| 繰越収支差額      | △ 11,664,517 | △ 11,511,027 | △ 11,658,664 | △ 11,575,120 | △ 12,899,253 |
| 純資産の部合計     | 47,948,208   | 48,805,684   | 49,490,615   | 50,167,155   | 51,297,134   |
| 負債及び純資産の部合計 | 52,518,397   | 53,358,065   | 54,474,562   | 54,612,949   | 55,890,792   |



## 主要財務比率の推移（2020年度～2024年度）

| 比率             | 算定式  | 一般的な評価(※) | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 全国平均 理工他複数学部 (2023年度) |
|----------------|--|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------------------|
| 学生生徒等納付金比率     | $\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$        | ～         | 80.4%  | 79.6%  | 77.9%  | 78.1%  | 77.6%  | 73.9%                 |
| 人件費比率          | $\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$             | ▽         | 47.8%  | 48.5%  | 48.7%  | 48.0%  | 49.8%  | 50.6%                 |
| 人件費依存率         | $\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$         | ▽         | 59.4%  | 60.9%  | 62.4%  | 61.4%  | 64.1%  | 68.5%                 |
| 教育研究費比率        | $\frac{\text{教育研究費}}{\text{経常収入}}$           | △         | 36.3%  | 34.7%  | 35.8%  | 35.7%  | 37.6%  | 37.1%                 |
| 管理経費比率         | $\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$            | ▽         | 9.0%   | 9.5%   | 9.6%   | 9.9%   | 10.2%  | 7.8%                  |
| 借入金等利息比率       | $\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$          | ▽         | 0.0%   | 0.0%   | 0.03%  | 0.03%  | 0.02%  | 0.1%                  |
| 基本金組入後収支比率     | $\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$ | 100%      | 95.0%  | 86.4%  | 87.2%  | 88.9%  | 74.1%  | 104.1%                |
| 事業活動収支差額比率     | $\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$ | △         | 7.7%   | 8.0%   | 6.2%   | 6.2%   | 9.9%   | 5.4%                  |
| 経常収支差額比率       | $\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$          | △         | 6.9%   | 7.3%   | 5.9%   | 6.4%   | 2.5%   | 4.3%                  |
| 運用資産余裕比率（単位：年） | $\frac{\text{（運用資産-外部負債）}}{\text{経常支出}}$     | △         | 1.3    | 1.3    | 1.3    | 1.5    | 1.4    | 1.9                   |
| 流動比率           | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$            | △         | 559.0% | 542.0% | 516.5% | 564.8% | 390.9% | 279.4%                |
| 総負債比率          | $\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$              | ▽         | 8.7%   | 9.3%   | 10.1%  | 8.9%   | 9.0%   | 11.8%                 |
| 前受金保有率         | $\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$             | △         | 730.9% | 723.4% | 721.2% | 863.1% | 545.9% | 414.8%                |
| 基本金比率          | $\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$          | 100%      | 98.7%  | 99.9%  | 102.0% | 102.0% | 100.7% | 97.6%                 |
| 積立率            | $\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$            | △         | 59.4%  | 60.8%  | 61.8%  | 62.5%  | 55.8%  | 75.3%                 |



### ⑤ 寄付金の状況について（2024年4月1日から2025年3月31日）

寄付金は、教育活動による資金収支の「寄付金収入」が3,596万円、「施設設備寄付金収入」が2,408万円、「現物寄付収入」720万円の合計6,724万円となりました。

## (2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

### ○ 経営状況の分析

学校法人が自身の経営状況を把握する指標として、日本私立学校振興・共済事業団（以下「私学事業団」という。）が定量的な経営判断指標<sup>※</sup>を定めています。本法人は、同指標で14区分（A1～D3）のうち上から3番目のA3（正常状態）であり、法人全体の経営状態に関しては、正常状態を保持していると判断できます。

### ○ 経営上の成果と課題

2024年度は、広島工業大学において未来創造力を養うための新カリキュラム「HIT. E-ACTION」をスタートさせ、併せて広島工業大学（仮称）新情報学部棟建設事業に着手しました。また、各設置校における教育環境の品質保全・向上策として、広島工業大学、広島工業大学高等学校、広島なぎさ高等学校・中学校のLED化事業を実施し、広島工業大学専門学校の耐震及び外壁改修工事に着手しました。さらに、次世代のものづくりを担う人材の育成と新たな価値の創造をめざす学園の拠点として「Hiroshima Making Hub」を立ち上げ、中心的な施設となるデジタルものづくり工房「Fab Lab」を大学内の三宅の森Nexus21に整備しました。

財政面の課題として、2024年度決算において経常収支差額比率が前年度6.4%から2.5%に減少したことが挙げられます。減少要因のひとつが、学生生徒等納付金の減少であり、今後各設置校において、入学者数の増加、退学者数の減少に向けて一層の努力をしていく必要があります。また、上述の施設整備等に伴う大規模な財政支出により、資金収支における翌年度繰越支払資金が前年度から約25億円減少し、72億3,300万円になりました。その結果、資産状況における運用資産余裕比率、積立率がそれぞれ対前年度比0.1年、7.0%減少しました。これらの指標は全国平均よりも低い状態にあり、適時適切な資金調達、収益源の拡充など、指標の改善に着目した対策を講じていくことも重要な課題であると考えています。

### ○ 今後の方針・対応方策

2024年度は、改正私立学校法に対応した寄附行為の改正、内部統制システムの整備に取り組み、新寄附行為施行のための対応、内部統制システム基本方針の策定を完了しました。次年度は内部統制システム基本方針に基づき、法人全体のガバナンスの強化を図ります。

また、2025年度は学校法人鶴学園第Ⅱ期中期経営計画・財務計画の最終年度となります。これまでの中期経営計画・財務計画を振り返りながら、将来を見据えた学校法人鶴学園第Ⅲ期中期経営計画・財務計画の策定を予定しています。同計画の中では、15年後の2040年を見据えた長期的な方向性を定めることとしています。

次年度以降も、中長期計画に沿った諸施策を策定し着実に実行することで、将来に亘って持続可能な財政基盤を確立していきます。

※ 日本私立学校振興・共済事業団ホームページ

[https://www.shigaku.go.jp/s\\_center\\_shihyo.htm](https://www.shigaku.go.jp/s_center_shihyo.htm)